

旭川医科大学 令和4年度概要

OUTLINE 2022



|| ごあいさつ

「人は錬磨により仁（ひと）となる」—旭川医科大学の目指すこと

旭川医科大学は、1973年11月に国立の新設医科大学として誕生し、来年で開学50周年を迎えます。本学の教育理念は一貫して、優れた医療人および研究者を育成し、地域医療に根ざした医療・福祉の向上を目指すとともに、国際社会の発展に寄与することです。これまで本学の教職員は一所懸命に活動し、教育、研究、診療、社会貢献のいずれの面におきましても成果を上げてきました。また、本学を巣立った学生（2022年4月において医学科4621名、看護学科1498名、合計6119名）は、北海道の地域医療に欠かせない存在となっているだけでなく、日本および世界の各地で医療者、研究者、そして指導者として活躍しています。コロナ禍に端を発した学内の混乱により皆様にご心配をおかけしましたが、2022年4月1日から新体制が発足し、開学時の精神に立ち返り、教育と研究に軸を置いた民主的な大学運営を着実に実行しております。

医科大学としての本学における最も重要な任務は、質の高い医学・看護学教育を提供し、優秀で誠実な医療者を育成することです。そのためにもまず、学生を大切にし、学生を第一に考える大学にし、最大限に愛情を込めて教育し、どこに出しても一目置かれる人材を育成したいと思えます。医学、看護学は複雑で難しく、発展途上の学問であり、技術的にもまだ十分ではありません。私たちは医学、看護学が現時点で到達した最高レベルを完全に習得するだけでなく、さらにこれらを発展させるために私たち自身が貢献していかなければなりません。そのためには不断の研究が必要であり、学生の皆さんに研究者マインドを植え付けることは本学の大切な教育目標の1つです。私は本学における研究活動が教育のレベルを高めるとともに、科学的探求の精神が本学出身者の医療者としてのレベル、倫理観を向上させる鍵

であると考えています。

大学は教職員と学生の「孵卵器」です。本学は医学科と看護学科だけから構成される小さな大学ですが、私たちはこれを本学の「強み」として生かしていきたいと思えます。小規模の医科大学であるからこそ、学生と教職員の協調と協力が十分に得られた場合、どの大学にも負けない最高の孵卵器を実現することが可能であると信じています。『正法眼蔵随聞記』（懷奘著）には、道元の言葉として「人々皆道を得ルことは衆縁による。」が示されています。道を究めるためには学友や先生とともに一緒に学ぶことが大切だということです。そして「玉は琢磨によりて器となる。人は錬磨によりて仁（ひと）になる。」のです。

道北・道東は人口減少と高齢化という社会変化が日本で最も急速に進行している地域です。この地域の皆さんに安心・安全かつ最善・最先端の医療をいつでもお届けできるよう旭川医大の総力を挙げて取り組んでいきます。この課題はとてつもなく困難ですが、その解決の道筋をつけることは日本や世界の将来にとってきわめて大きな意義を持っています。今後の本学の歩みにご期待いただくとともに、ご支援、ご鞭撻をよろしく願います。



学長(第8代)

西川 祐司

令和4年4月1日～

A Person Becomes a True Person by Training – Aims of Asahikawa Medical University

Asahikawa Medical University was founded in November 1973 under the “One Prefecture, One Medical School” policy in Japan. Next year, we will celebrate our 50th anniversary. Since the foundation of our university, our educational philosophy has been to nurture prominent medical professionals and researchers, to contribute to the improvement of health and welfare in the local community, and to boost involvement and commitment for the international community. All of our faculty members have been working hard and made achievements in education, research, clinical activities, and have contributed to society. As of April 2022, Asahikawa Medical University has produced 4,621 graduates from the Medical Course and 1,498 graduates from the Nursing Course. They are indispensable in regional medicine in Hokkaido, working actively as medical professionals, researchers, and outstanding leaders both domestically and internationally. While we encountered some challenges originating from the outbreak of COVID-19, on April 1st, 2022, we launched the new university administration, which has been in steady, democratic operation, placing emphasis on education and research as it was at the time of the foundation of our university.

One of the most important missions we as a medical university must conduct is to offer quality medical and nursing education and to nurture excellent and conscientious medical professionals. In order to accomplish that mission, we assign first priority to our students, educating them with utmost care so that they will be acknowledged wherever they work. The study of medicine and nursing is complex, difficult, and the technology available is often insufficient. We must not only acquire the highest level of knowledge that medical and nursing studies have reached so far, but also contribute to develop it further by ourselves, which will be achieved through continuous research activities. Our university attempts to instill research-mindedness in our students. I believe that research

activities conducted in our university and the spirit of scientific exploration are the key to raising the levels of our educational activities, medical activities conducted by graduates from our university, and our sense of ethics.

A university is an “egg incubator” for faculty members and students. While our university is small, consisting of only two courses, the Medical and Nursing Courses, we can take advantage of its size. I believe that, with all of our faculty members and students cooperating harmoniously, our university will be the best incubator ever. In The Treasury of the True Dharma Eye: Record of Things Heard, a collection of Dharma talks given by Dōgen, a Japanese Buddhist priest in the 13th century and founder of the Sōtō school, one of his ideas was introduced: “Although each individual inherently possesses the Way, the gaining of it depends on all the monks studying together.” That shows that, in order to understand the truth, we must learn together with fellow students and teachers. We must keep in mind that “A jewel becomes an object of beauty by polishing; a person becomes a true person by training.”

The northern and eastern parts of Hokkaido are experiencing profound social changes such as a decrease in the number of people and aging populations. Asahikawa Medical University will work hard to offer people in those areas the best and most advanced medicine at any time to help them feel safe and secure. Although the problems are incredibly difficult, we will pave the way for the solutions. That is extremely crucial for the future of Japan and all over the world. We will strive to meet the expectations of everyone in our local communities and the world. We appreciate your support and encouragement.

Eighth President

NISHIKAWA Yuji

Since April 1, 2022

Contents

ごあいさつ	
教育理念・目標	02
ミッションの再定義について／大学の基本的な目標	03
ディプロマ・ポリシー	04
カリキュラム・ポリシー	06
アドミッション・ポリシー	10
トピックス	14

研究成果トピックス	16
沿革	18
組織機構図	20
役職員・歴代学長等	21
講座及び学科目等	25
学生数等・学年暦	26
研究領域等	30

旭川医科大学病院	33
診療実績	35
遠隔医療センター	38
看護職キャリア支援センター／専門医・育成管理センター	39
図書館／保健管理センター	40
教育研究推進センター／学内共同利用施設	41
社会連携	42

国際交流	44
教育・研究費等	45
土地・建物配置図	46
位置図	48

教育理念・目標

学部

教育の理念

豊かな人間性と幅広い学問的視野を有し、生命の尊厳と高い倫理観を持ち、高度な知識・技術を身につけた医療人及び研究者を育成する。また、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者を育てる。さらに、教育、研究、医療活動を通じて国際社会の発展に寄与する医師及び看護職者の養成に努める。

教育の目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- 幅広い教養とモラルを養うことにより、豊かな人間性を形成する。
- 生命の尊厳と医の倫理をわかまえる能力を養い、病める人を思い遣る心を育てる。
- 全人的な医療人能力や高度な専門知識を得るとともに、生涯に亘る学習・研究能力を身につける。
- 幅広いコミュニケーション能力を持ち、安全管理・チーム医療を実践する資質を身につける。
- 地域・僻地住民の医療や福祉を理解し、それらに十分貢献しうる意欲と能力を獲得する。
- 積極的な国際交流や国際貢献のための幅広い視野と能力を習得する。

大学院

基本理念

理念

- 医療系大学院として、基礎研究と臨床研究の多様な取組を通し、医学・看護学の総合的な発展を図ります。
- 自主・自律の精神を以て深く真理を探究し、真摯な研究活動を通して知の創造を目指します。
- 多様で調和のとれた教育体系のもと、豊かな教養と高い人間性、厳しい倫理観を備えた、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成します。
- 開かれた大学院として、地域に根ざすと同時に世界との連携にも努め、医療福祉の向上と国際社会の調和に貢献します。

教育目標

博士課程[医学専攻]	秀でた独創性、豊かな人間性、厳しい倫理観を備えた、医学教育者・研究者の育成
	地域社会の医療福祉の充実のために、指導的な役割を担える高度専門職業人の育成
	国際社会で、医学・医療の取組を通し、その普遍的価値を共有できる人材の育成
修士課程[看護学専攻]	豊かな人間性、優れた研究能力、高い倫理観を備えた、看護学教育者・研究者の育成
	看護専門職者として、優れた問題解決能力を発揮し、指導的役割を担える人材の育成
	看護学の取組を通して、地域社会における保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成

ミッションの再定義について

ミッションの再定義とは、各国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学の強み・特色・社会的役割(ミッション)を整理したものです。

これに基づき、本学としては、今後、大学の強みや特色を伸ばし、さらなる教育・研究・医療の発展、意欲ある医療人の育成など、その社会的役割を一層果たしていくための機能強化を図っていきます。

医学系

旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医師・研究者等の養成を積極的に推進する。特に、道内の高校や医療機関と連携し、地域医療に対する強い意欲・使命感を持った学生の積極的な受入れを推進する。

北海道の医療支援の実績から発展した遠隔医療の研究、高齢化に対応した脳機能工医学研究の推進等、地域特性に対応した様々な研究を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。

橋渡し研究支援拠点として、基礎研究成果の臨床への応用を強力に推進することにより研究成果の実用化を図り、日本発のイノベーション創出を目指す。

北海道と連携し、道内の地域医療を担う医師の確保及びキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の医師偏在の解消に貢献する。

地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院等として、地域医療の中核的役割を担う。

看護系

旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に寄与するため、豊かな人間性と思考力、高い倫理感を有する看護職を育成する。特に、臨地実習までの学習成果を確認し客観的臨床能力試験(OSCE)を導入するとともに能動的学修空間を整備するなど、学生の意欲に応えるため、教育内容や学修環境を充実させ、教育効果を高める。

がん看護専門看護師を始め急激な高齢化に対応した高度専門的人材や指導的な人材を育成するとともに、看護職の復職支援等によって看護師不足に対応し、道北・道東を始めとする地域の医療へ貢献する。

遠隔看護の研究等の取組を活かし、広大かつ厳しい気候条件にある道北・道東を始めとする地域の住民の健康保持に貢献する。発展途上国の保健行政・母子保健における医療人材の育成の取組を活かし、国際性豊かな医療人を育成し、国際社会への貢献を目指す。

大学の基本的な目標（第4期中期目標期間）

旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすため、以下の基本的な目標を定める。

- 豊かな人間性と基礎的能力を育む教育を通じ、研究力、実践的能力を持ち、国際的感覚を備えた意欲的な医療人を育成する。
- リサーチマインドを涵養し、独創的で質の高い研究を推進する。
- ステークホルダーとの共創により、地域社会の活性化を図る。
- 地域医療の充実と先端的な医療の推進を図り、多職種協働による安全でレベルの高い医療を提供する。
- 大学ガバナンス体制の点検・見直しを進め、安定した財務基盤を構築する。

ディプロマ・ポリシー〔学位授与の方針〕

旭川医科大学医学部 医学科〔学士課程〕

旭川医科大学医学部医学科では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し学位〔学士(医学)〕を授与します。

「倫理観とプロフェッショナリズム」(態度)

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。
患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。
急性もしくは慢性的健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。
また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

旭川医科大学医学部 看護学科〔学士課程〕

旭川医科大学医学部看護学科では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し学位〔学士(看護学)〕を授与します。

「倫理観に基づいた看護の社会的使命の遂行」(姿勢・態度)

・医療チームの一員として高度な生命倫理に基づいた誠実で良識ある看護実践を行う姿勢・態度を身につけている。
・社会に対して看護の使命を認識して実践する姿勢・態度を身につけている。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

・地域から国際社会に至るまで保健・医療・福祉に関する社会的ニーズを踏まえ、看護の実践研究を通して課題を解決する意欲を有する。
・看護の専門職として、たえず自己研鑽する意欲を有する。

「看護学と医療・保健・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

・幅広い教養を身につけ、看護の専門的知識を習得している。

「問題解決能力、発展的思考能力、研究心」(思考・判断)

・研究的視点から看護に関する問題を発見し、その解決のための思考力・判断力を身につけている。

「根拠に基づいた基礎的看護実践能力」(技能・表現)

・すべてのライフステージ・健康レベルに応じた、根拠に基づく基本的看護実践ができる技能及び表現力を身につけている。

旭川医科大学大学院 医学系研究科医学専攻〔博士課程〕

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められ、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し学位〔博士(医学)〕を授与します。

「倫理観とプロフェッショナリズム」(態度)

臨床研究者コース) 生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、チーム医療に基づいた高度の専門的医療を実践できる。
また、解決すべき問題を自ら見出し、それを探究する意欲を持っている。

研究者コース) 生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、これらを踏まえた基礎研究を遂行できる。
また、解決すべき問題を自ら見出し、それらを探求する意欲を持ち、さらに専門家による批評に堪えうる世界レベルの質の高い研究を志向する態度を持っている。

「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

臨床研究者コース) 基礎医学の素養に裏打ちされた、臨床医学、社会医学に関する専門的な知識を持っている。
また、これらに基づいた医療および研究を実践するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。

研究者コース) 基礎研究に関する幅広く深い知識のみならず、自らの基礎研究と医学との関わりについて理解するための基本的医学知識を持っている。
また、最先端の研究を遂行するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。

「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力、研究遂行能力」(技能)

臨床研究者コース) 豊かな人間性を持って患者、患者家族と接し、患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療のための実践的臨床能力を身につけ、臨床研究を実践できる。
また、高度の専門性が必要な診断と治療を実践できる。

研究者コース) 豊かな人間性に基づいた知的好奇心を持ち、医学・医療の発展に寄与しうる専門的かつ独創的な基礎研究を実践できる。

「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

臨床研究者コース) 基礎医学、臨床医学、社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを診療に応用することができる。
また、未解決の問題を、論理的、科学的に探究できる。

研究者コース) 基礎研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを自らの研究に役立てることができる。
また、未解決の問題を、強い探究心を持って論理的、科学的に追求できる。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

臨床研究者コース) 医療に対する社会的ニーズを理解し、臨床研究、専門的医療の実践を通じて地域社会や国際社会に貢献できる。

研究者コース) 自らの基礎研究を通じ医学・医療の発展に寄与することで、地域社会や国際社会に貢献できる。

旭川医科大学大学院 医学系研究科看護学専攻〔修士課程〕

1. 看護学とその学際領域における深い学識、高い倫理観と課題解決への意欲を持ち、専門的知識・技術、科学的根拠に基づく問題解決能力を有している。

2. 豊かな人間性を身につけ、人権を尊重し、ニーズのある当事者の立場に立ち支援することができる専門的な実践能力を身につけている。

3. 論理的思考力を備え、保健・医療・福祉の現場における看護の現象や実践的技術に関する研究能力を有している。

4. 国内・国外を問わず、高度な実践、研究を通じて、保健・医療・福祉の向上に貢献する学際的チームと協働・連携できる。

5. 高い倫理観を背景に、医療チームの一員として看護ケアの質の向上を図る意欲と、根拠に基づく分析的・科学的で高度な専門的看護を実践できる卓越した専門的能力を有している。(高度実践コース)

カリキュラム・ポリシー [教育課程編成・実施の方針]

旭川医科大学医学部 医学科 [学士課程]

医学科では、医療分野における多様な価値観等に触れるための基礎教育科目、医師のプロフェッショナルリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM(Introduction to Clinical Medicine)科目、より専門的な内容を学び、実践的な力を身につけるための基礎医学科目、臨床医学科目による教育課程を整備し、これらの体系的な履修を促します。また、日進月歩である医学の発展に教育課程として柔軟に対応するために「選択・必修コースⅠ～Ⅱ」をICM科目の中に配置し、基礎医学・臨床医学の発展に即した教育課程となるよう努めています。

医学科では、医学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

①「倫理観とプロフェッショナルリズム」(態度)

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

1. 医学者としての倫理原則や臨床医として患者さんに対応するための行動科学を理解するために、ICM科目に「医療概論Ⅰ～Ⅳ」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

②「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

2. 文化、社会、自然等に関する幅広い知識を身につけ、多様な価値観等に触れるために、教養科目を基礎教育科目と位置づけ履修を個人の希望に合わせた選択としています。
3. 医師のプロフェッショナルリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM科目を設定し履修を必修としています。
4. 専門分野の学問の内容と方法を説明でき、自学自習の態度を涵養し、確実に知識を獲得するために、講義・実習科目としての基礎教育科目、基礎医学科目、臨床医学科目のみでなく、ICM科目として「医学チュートリアルⅠ～Ⅴ」を演習科目として配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

③「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。

急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

5. 心理学的背景を理解した上で、医療コミュニケーションを円滑に行うために、基礎教育科目に「心理・コミュニケーション実習」を1年次に配置しています。
6. 主要徴候に基づく健康問題の診断と治療の原則を理解するために、1年次に「症候学」を導入し、ICM科目の「医学チュートリアルⅢ～Ⅳ」と臨床医学科目の「症候別・課題別講義」を連動させ配置しています。
7. 臨床実習に必要な基本的診療能力と臨床推論能力を身に付けるために、臨床医学科目の「臨床実習序論」とICM科目のTBL型演習である「医学チュートリアルⅤ」を連動させ配置し、4年次に展開しています。
8. 臨床実習は、4年次～5年次に配置するベッドサイドローリングで全ての臨床科目をローテートし、引き続き配置する実習ではクリニカルクラクシップ(診療参加型実習)を採用し4週間を一単位として基本診療科を中心に5年次～6年次に必修で展開しています。

④「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。

また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。

9. 自らの思考・判断のプロセスや結果を、論述等で論理的に的確に説明できるように、基礎教育科目に「基礎生物学実習」、「医用物理学実習」、「基礎化学実習」、基礎医学科目には「生化学実習」、「形態学実習Ⅰ、Ⅱ」、「生理学実習・演習」、「薬理学実習」、「微生物学実習」、「寄生虫学実習」、「衛生・公衆衛生学実習」、「法医学実習・演習」等の実習科目を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。
10. 臨床情報に基づく研究を行うために臨床医学科目に「臨床疫学」を配置し、獲得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行う医学研究者としての素養を養うため、4年次に研究室に所属する必修科目としてICM科目に「医学研究特論」を配置しています。

⑤「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

11. 地域医療の問題点を知るための「地域医療学」、旭川近郊および北海道での医療ニーズの探索のための「早期体験実習Ⅰ、Ⅱ」、医療に関わる社会的問題を知り解決するための「医療社会学」、「医療社会学実習」をICM科目に配置しています。また地域における病める者の医療ニーズを知るために臨床医学科目に「健康弱者のための医学」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。
12. 医学研究を通じて国際社会に貢献する方法を知るために「医学研究特論」を4年次に配置しています。

学習成果の評価の方針

1. 講義の学習成果は、試験・レポート・授業での課題等により、演習や実習では課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。医学研究特論は、取り組み状況、研究成果の発表により評価します。臨床実習は、各診療科の評価基準(ルーブリック評価、レポートなど)に従って評価します。
2. 各卒業時到達目標、コンピテンシーの達成度、および各学年で身につけた知識、技能、態度等の総合評価は「医学科コンピテンシー・評価対応表」により行います。
3. 本学の医学教育をより良いものにするため、カリキュラムの評価と検証を継続的に行います。その評価・検証体制は「アセスメント・ポリシー」に示されています。

旭川医科大学医学部 看護学科 [学士課程]

看護学科では、高齢社会の到来、医療の高度化など、新たな医療・看護に対する社会の要請に応え、広い教養基盤を支えとする看護実践力を備えた看護専門職を養成するための看護基礎教育を行っています。また、保健師・助産師になるための選択履修科目をそれぞれ設けています。

教育課程は、一般基礎科目・専門基礎科目・専門科目の3群で構成し、さらに専門科目は「看護の基礎」「特性と看護」「看護の発展と探求」の3段階に配置し、看護学を体系的に学習できるよう配慮してあります。また、4年間を通して学ぶ「地域包括ケア論Ⅰ」～「地域包括ケア論Ⅳ」、3年時に「地域包括ケア実習」を配置しました。

当学科では講義・演習・実習の授業形態を有機的に組み合わせ、段階的かつ系統的な教育によって、看護実践ができる人材の養成を目指しています。

看護学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

①「倫理観に基づいた看護の社会的使命の遂行」(姿勢・態度)

医療チームの一員として高度な生命倫理に基づいた誠実で良識ある看護実践を行う姿勢・態度を身につけている。

社会に対して看護の使命を認識して実践する姿勢・態度を身につけている。

1. 看護職に必須な倫理を理解するために、第1学年に看護の基盤となる科目「看護学概論」「コミュニケーション論」「人間生涯発達論」を配置しています。第2学年に専門職倫理を深める「看護倫理」を配置しています。
2. 医療チームの一員としての看護実践に備えるために、第1学年に初年次教育として「早期体験実習Ⅰ」を、第2学年に「早期体験実習Ⅱ」を配置しています。
3. 人間という存在に対する畏敬の念を培うために、第1学年に「生体観察実習」を配置しています。
4. 社会的存在としての看護職者の姿勢・態度を身につけるために、第1学年に「初年次セミナー」を、第1学年から第4学年を通じて段階的に臨床実習を、また卒業前に「総合実習」を配置しています。

②「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

地域から国際社会に至るまで保健・医療・福祉に関して多様な人々と協働し、社会的ニーズを踏まえ、看護の実践・研究を通して課題を主体的に解決する意欲を有する。

看護の専門職として、たえず自己研鑽する意欲を有する。

5. 学士課程での学び方を学ぶために第1学年に初年次教育として「初年次セミナー」を配置し学習意欲を高めます。
6. 地域医療に興味と関心を持ち北海道の地域特性に応じた医療ニーズを探るために第1学年では近隣の地域で学ぶ「早期体験実習Ⅰ」、第2学年では多様な地域に滞在しながら学ぶ「早期体験実習Ⅱ」を配置しています。
7. 人々が住み慣れた地域で生活できるよう支え支援していく方法を第1学年から第4学年まで段階を踏みながら自ら探索していく「地域包括ケア論Ⅰ」～「地域包括ケア論Ⅳ」を4年一貫教育プログラムとして配置しています。
8. 地域社会および国際社会に貢献できるよう、第1学年に「地域看護学」、第3学年に「英語文献講読」、第4学年に「国際保健・災害看護論」を配置しています。

③「看護学と医療・保健・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養を身につけ、看護の専門的知識を修得している。

9. 文化・社会・自然に関する幅広い知識を身につけ多様な価値観に触れるために、教養科目を一般基礎科目と位置づけ、学習スキルやキャリア形成を育むために「初年次セミナー」「情報リテラシー」を必修科目に配置しています。選択科目として、対象把握の有機的な理解のために「手話入門」をはじめ、個人の希望に合わせて履修できる様々な科目を配置しています。
10. 生活体である人間を理解するための専門基礎科目を設定し、その履修を必修としています。第1学年には、人間の心と体を理解する科目と第2学年には疾病や治療、薬理に関する科目を配置しています。第3学年には集団や地域の保健・医療・福祉に関する理解を深めるため「保健医療福祉システム論」を配置しています。

- 看護の基礎的知識を学び、人間の各発達過程の特性と看護に関する科目として、第2学年から第3学年に専門科目「成人看護学Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学Ⅰ・Ⅱ」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」を設定し、臨床全般の看護の知識を学べるように配置しています。また、第3学年、第4学年には、看護の発展と探求の科目に、必修科目として「在宅看護論」「がん看護学Ⅰ」「チーム医療・リハビリテーション看護論」、選択科目として「認知症ケア論」「クリティカルケア論」「がん看護学Ⅱがんサバイバーシップ」「がん看護学Ⅲエンドオブライフケア」などを配置しています。さらに、4年間を通じて保健師課程、助産師課程の必修科目を配置し、看護学と並行して公衆衛生看護学、助産学の基礎・専門知識を学ぶために選択履修ができるようになっています。

④「問題解決能力、発展的思考能力、研究心」(思考・判断)

看護に関する疑問や問題を、研究的視点から自ら解決に取り組むための思考力・判断力を身につけている。

- 論理的に思考・判断することができるために、第1学年では「学ぶこと」を体験的に学習する「初年次セミナー」、第2学年では問題解決思考による看護過程を展開する「基礎看護技術学Ⅳ」、対象の健康をアセスメントする「看護フィジカルアセスメント」、データの処理を扱う「保健統計」を配置しています。第3学年には個人のみならず、集団や地域の健康に関する「疫学」を配置しています。
- 獲得したさまざまな知識を用いて看護の現実問題の解決に取り組む基礎を身につけるために、第1学年に「初年次セミナー」を、第3学年に「看護研究」、第4学年に「卒業研究」を配置しています。

⑤「根拠に基づいた基礎的看護実践能力」(技能・表現)

すべてのライフステージ・健康レベルの対象に応じた、根拠に基づく基本的看護実践ができる技能及び表現力を身につけている。

- 基礎的な看護技術を身につけるために、第1学年から第2学年において「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護フィジカルアセスメント」を配置しています。また、第1学年の「基礎看護学実習Ⅰ」では患者の生活や看護を理解し、第2学年には看護過程を展開する「基礎看護学実習Ⅱ」を配置しています。
- 第3学年には第2学年で学んだ各領域別看護学の知識を基に、「実践看護技術学Ⅰ(成人領域)」「実践看護技術学Ⅱ(精神・母性・小児の各領域)」、第4学年には「実践看護技術学Ⅲ(高齢者・在宅領域)」の演習科目を配置し、講義内容と関連づけて看護実践能力を身につけることができます。
- 第3学年では臨地実習前の技術の保証として、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)を実施し、第3学年から第4学年では領域別看護学実習を行い、ライフステージの特徴や健康レベルを的確に把握し、個別的看護実践に結びつけることができるようカリキュラムを展開しています。
- 第4学年には夜間の実習や複数の患者を担当するなどの「総合実習」を配置し、看護実践力をより向上できるようカリキュラムを展開しています。

学習成果の評価の方針

- 講義の学習成果は、試験・レポート・授業での課題等により、演習や実習では課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。看護研究は、取り組み状況、研究成果の発表により評価します。臨地看護学実習は、各科目の評価基準(ルーブリック評価、レポートなど)に従って評価します。
- 各卒業時到達目標、コンピテンシーの達成度、および各学年で身につけた知識、技能、態度等の総合的評価は「看護学科コンピテンシー・評価対応表」により行います。
- 本学の看護学教育をより良いものにするため、カリキュラムの評価と検証を継続的に行います。その評価・検証体制は「アセスメント・ポリシー」に示されています。



旭川医科大学大学院 医学系研究科医学専攻 [博士課程]

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)では、学生が専攻する科目において先端的な研究を目指す「研究者コース」と臨床研究や臨床試験を推進する能力を涵養する「臨床研究者コース」の2つのコースを設けています。いずれも所属研究室における直接的な個人指導を基本とし、学生は自由かつ学問的な雰囲気の中で研究活動を行います。専門科目では研究の進行に合わせた段階的な特論、特論演習、特論実験実習などを通して、態度、知識、技能、思考・判断能力を体得していきます。研究成果を獲得し、学位論文を書き上げることで、達成感を得るとともに、継続して地域社会・国際社会に貢献する意欲・関心を育みます。上記に平行し、初年次より2年単位で展開される一連の共通講義(先端医学特論、基盤医学特論、医学論文特論)を受講し、学内の研究者との交流を深めながら、医学研究を遂行する上で必要な基礎的・応用的知識を学び、研究者としての倫理的素養を身につけていきます。このような総合的・体系的な大学院教育を通じ、将来の医学を支え、社会からの要請に応える指導的な人材を育成することが本博士課程の目標です。

学生は初めに上記いずれかのコースを選択しますが、研究の進展に応じ、コースの途中変更が可能です。また、研究の遂行に有益と認められる場合には、学内の他の研究室において指導を受けることや、海外を含めた学外の大学院、研究所などで研鑽を積むこともできます。さらに、初期臨床研修の1年目から大学院に在籍し、研究を早期にスタートさせる制度も採用しています。なお、共通講義については、講義室での通常の講義の他、大学院ホームページ上のeラーニングシステムを充実させ、各自の研究・研修スケジュールに合わせてそのシステムから必要な講義を効率的に受講できるよう配慮しています。以上のように、本博士課程では、学生の主体的な学びを促進するため、可能な限りフレキシブルなカリキュラムを提供するよう努めています。

学修成果の評価は、共通科目、専門科目及び学位論文についてあらかじめ定められた基準に従って行われます。なお、提出された学位論文は、大学院委員会が設置する論文審査委員会による審査及び最終試験により評価されます。

旭川医科大学大学院 医学系研究科看護学専攻 [修士課程]

○看護学を基盤とした高度専門医療人として健康課題の問題解決にとり組むために必要な保健、医療、福祉に関する専門的知識と高い倫理観、学際的な視野に基づく実践能力および研究手法を修得し、科学的根拠に基づいた実践と研究が展開できるよう体系的にカリキュラムを編成します。

○修士論文コースでは、共通科目で研究に関する基礎的能力を養い、各領域の特論・演習・特別研究をととして研究遂行能力を育成します。

○高度実践コースでは、がん看護学及び高齢者看護学の共通科目・専門科目をととして高度な専門的看護の実践能力を育成します。

○成績の評価は、学位授与の方針に基づき各科目に掲げられている履修の目的や目標の達成度をめやすとして評価します。評価は、プレゼンテーションやディスカッション、課題レポート、筆記試験、実技など各科目で設定された方法により行います。

○科学的根拠に基づく研究方法を用いた研究成果に基づく考察を備え、学位に相応しい修士論文を作成できるよう研究指導計画書に沿った適切な助言と研究指導をします。

○特別研究及び課題研究では、進捗状況が各年次で達成すべき水準に到達しているか、研究計画発表会等によって確認します。

○論文審査では、研究及び学修成果が学位に相応しい内容であるかを論文審査基準にもとづき審査します。



アドミッション・ポリシー [入学者受入れ方針]

本学の教育理念、教育目標に基づくアドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)は、次のとおりです。

- 医師・看護職者としての適性ととも地域社会への関心を持ち、自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力を持つ学生

医学部

○旭川医科大学の求める学生像

I. 医師・看護職者としての適性

- 全ての生命の尊厳を重んじる学生
- 社会的規範・道徳に沿って、自らの行動を律することのできる学生
- 他者を尊重し、他者を思いやる心を持つ学生
- 多様な人々と良好な関係を築くことができる学生
- 幅広い教養を身につける努力をしている学生
- 最新の知識や技術を身につけるため、学び続ける学生
- チーム医療を実践するための素養を備えた学生

II. 地域社会・国際社会への関心

- 自らの居住地域及びその住民に対して愛着を持つ学生
- 自らが所属する地域共同体のみならず、国際的視野を持ち、社会全体に貢献する志を有する学生

III. 自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力

- 直面する問題に対し、広く世界を俯瞰し、自らが持つ知識・技能を論理的に応用することで、的確に課題を発見し、解決しようと行動できる学生

○入学者に求める資質等

- [**関心・意欲、態度**] 将来医師・看護職者として社会に貢献する高い志を持ち、他者に配慮し、自らを律して行動できる人
- [**知識・技能**] 医学又は看護学を学ぶために必要な基礎学力を有し、課題発見能力・応用力を備えた人
- [**思考力・判断力・表現力**] 課題を発見し解決するための基礎となる論理的な思考力・判断力を備え、高度なコミュニケーション能力の基礎となる教養と口頭・文章表現力を持つ人
- [**主体性・多様性・協働性**] 高等学校等での総合学習や課外活動などを通じて周囲の人と良好な関係を築くことができる協働性を備え、多様な人と協働するための自己分析能力や、主体的な活動の経験を有する人

高等学校等までの各教科において、以下の能力を身につけていることを望みます。

- [**国語**] 良好な人間関係を形成するために、日本語の内容を正確に理解し、自らの考えを適切に表現するとともに他者の考えを正しく理解できること
- [**地理歴史・公民**] 一般社会において主体的に生きるために、良識ある公民として行動できること
- [**数学**] 基礎的知識の理解と習得に加え、身の回りの事象を数学的に考察できるとともに、数学的論拠に基づいて判断できること
- [**理科**] 身の回りの事象を自らの知識に基づいて科学的に判断するために、広く自然科学全般について深く洞察できること
- [**英語**] 将来国際レベルで学術情報の収集・発信を行うことができるよう、英語の内容を正確に理解し、身近な話題や興味関心のあるテーマについて自らの考えを適切に表現できること

○入学者選抜の基本方針

各選抜区分における選抜方法及び主要評価項目は以下のとおりです。

医学科

選抜区分	選抜方法	主要評価項目					特記事項
		知識・技能	表現力	思考力・判断力	関心・意欲、態度	協働性・主体性・多様性	
一般選抜 (前期日程、後期日程)	大学入学共通テスト	○	○				「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を備えた者を重視して選抜する。
	個別学力検査	○	○				
	面接試験及び調査書等				○	○	
総合型選抜 (国際医療人特別選抜)	大学入学共通テスト	○	○				学力等とともに、旭川医科大学の医学・医療活動を国際レベルに発展させるために、高い向上心と志を生涯に亘って持ち続け、本学の医学・医療活動の発展に貢献する強い意欲を持っている者を選抜する。
	課題論文試験	○	○				
	面接試験及び調査書等				○	○	
総合型選抜 (北海道特別選抜)	大学入学共通テスト	○	○				学力等とともに、医学の分野で北海道の医療及び社会に貢献する強い意欲を持っている者を選抜する。
	課題論文試験	○	○				
	面接試験及び調査書等				○	○	
学校推薦型選抜 (道北・道東特別選抜)	大学入学共通テスト	○	○				学力等とともに、北海道の上川中部を除く道北、道東並びに北空知及び中空知地域における医療に貢献する強い意欲がある者を選抜する。
	課題論文試験	○	○				
	面接試験及び調査書等				○	○	
私費外国人留学生選抜	個別学力検査	○	○				出身学校が発行する成績証明書の内容、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績を総合的に評価する。
	面接試験				○	○	
第2年次編入学	個別学力検査	○	○				大学等での学修及び社会経験により身につけた資質等を評価する。学力等とともに、「国際医療人枠」では、旭川医科大学の医学・医療活動を国際レベルに発展させるために、高い向上心と志を生涯に亘って持ち続け、本学の医学・医療活動の発展に貢献する強い意欲のある者を選抜する。「地域枠」では、北海道の地域医療を理解し、北海道の医療に貢献する強い意欲のある者を選抜する。
	面接試験				○	○	

看護学科

選抜区分	選抜方法	主要評価項目					特記事項
		知識・技能	表現力	思考力・判断力	関心・意欲、態度	協働性・主体性・多様性	
一般選抜(前期日程)	大学入学共通テスト	○	○				「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を備えた者を重視して選抜する。
	小論文試験	○	○				
	面接試験及び調査書等				○	○	
一般選抜(後期日程)	大学入学共通テスト	○	○				「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を備えた者を重視して選抜する。
	面接試験及び調査書等				○	○	
学校推薦型選抜	面接試験及び調査書等	○	○	○	○		能力及び適正等を総合的に評価するとともに、看護学に関する学修意欲が特に強く、将来は看護の専門分野における実務・指導に携わりたいことを決意している者を選抜する。
私費外国人留学生選抜	個別学力検査	○	○				出身学校が発行する成績証明書の内容、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績を総合的に評価する。
	面接試験				○	○	

大学院医学系研究科

博士課程 (医学専攻)

○求める学生像

1. 知的好奇心を持ち、生命科学、社会医学、臨床医学の研究を志す人
2. 医学・医療を通して、社会へ貢献することに情熱を持つ人
3. 研究成果を世界に向けて発信し、世界と共有する意欲のある人
4. 自ら課題を見つけ、研究を遂行するために必要な学問的素養と論理的能力を備えた人
5. 自ら必要な情報を収集し、論文を作成し、発表するために必要な言語的能力を備えた人
6. コミュニケーション能力を備え、周囲の人々と相互的な協力関係を築ける人

○入学者選抜の基本方針

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、学力検査の成績、面接の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

学力検査においては基礎学力を、面接においては医療人・研究者としての適性と向上心を評価します。

修士課程 (看護学専攻)

○求める学生像

1. 高い問題意識と倫理観を備え、論理的思考力と科学的根拠に基づき、問題解決にとり組む意欲と探究心のある人
2. 志望する専攻領域の基礎的知識を身につけている人
3. 豊かな人間性を備え、保健・医療・福祉の向上に貢献するため教育・研究・看護実践で指導的役割を担う意志のある人
4. 研究や問題解決に主体的に取り組み、学際的に協働するため必要なコミュニケーション能力を備えている人
5. 専門看護師として、看護実践・研究に指導的役割を担う意志のある人(高度実践コース)

○入学者選抜の基本方針

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、小論文、口述試験(志望する専門領域に関する事項)の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

小論文においては、理解力、論理的思考力、文章表現力を、口述試験においては探究心、研究への意欲等を評価します。

学ぶ喜び、研究する喜び、
働く喜びに満ちた
「活力ある旭川医科大学」を目指して



トピックス

旭川医科大学医学部看護学科25周年記念事業 記念式典の挙

令和4年3月5日、旭川医科大学医学部看護学科25周年記念事業記念式典をオンラインにて挙行いたしました。本式典は令和8年に開設30周年を迎えるにあたり、その前段とした記念事業となります。

25周年記念式典では、冒頭に西川祐司副学長(当時)と服部ユカリ看護学科長からのご挨拶があり、本学病院原口真紀子看護部長と本学名誉教授北村久美子先生から祝辞を賜りました。

また、同時に看護学科同窓会特別奨励賞が本学卒業生4名に授与されました。表彰式では、4名を代表して、本学病院の急性・重症患者看護専門看護師の酒井周平さんに表彰状・記念品が授与されました。

引き続き「看護学科25周年 卒業生の現在地」をテーマとして、4名の特別奨励賞受賞者による講演とシンポジウムを開催いたしました。



病院機能評価 更新評価認定

病院機能評価は、(財)日本医療機能評価機構が実施している医療機関を対象とした第三者評価のことで、「患者の権利と医療の質及び安全の確保」や「病院運営管理の合理性」など医療機関の質を高めるために必要な領域に関する詳細な審査が行われます。

令和2年2月の受審と再審査受審を経て、令和4年4月1日付で「認定」の通知がありました。今後とも大学病院としての使命を果たすとともに、患者さんを思いやり、病院機能評価の認定にふさわしい病院として、良質で安全・安心な医療を提供できるよう努めて参ります。

形成外科「乳房再建相談外来」の開設

令和3年度より旭川医科大学病院に形成外科が新設されました。それと同時に乳がんの手術で失ってしまった乳房を新しく作り直すための乳房再建を乳腺外科の先生方の協力を得てはじめています。そこで、再建法の話だけでも聞いてみたいという患者さんや既に本院で乳房再建を施行した患者さんを診察するために、「乳房再建相談外来」を開設しました。北海道では道央圏以外の地域は乳房再建を積極的に行う施設が少なく、乳房再建を希望する患者さんにとって医療過疎地域といえる状況です。道北、道東圏の中心都市の旭川も例外ではありません。しかし、「乳房再建相談外来」の開設を機に、人工物を用いた乳房再建症例を中心に徐々に手術件数が増加しています。今後もこの分野でのさらなる発展が期待されます。

看護師特定行為研修の開始

本院は、令和3年8月17日に看護師による特定行為指定研修機関として厚生労働大臣より指定を受け、同年10月1日から研修を開始しました。今年度は、集中ケア認定看護師1名が受講しています。

特定行為研修は、看護師が、医師又は歯科医師の指示の下、手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修です。本院は道北・道東地域の基幹病院として高度な医療を提供する特定機能病院であること、手術目的で入院する患者が多い一方、在院日数が短縮する中、退院後の生活を見据えスムーズに地域医療へつなぐことが求められています。そのため研修は「外科術後病棟管理領域」を選択しました。特定行為をタイムリーかつ適切に実施することにより、術後の異常の早期発見、合併症の防止、さらに医療と看護、生活の視点を急性期から持ち関わることで、地域・在宅医療へスムーズに移行できると考えます。

本院の研修の魅力は、内科、外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、麻酔科蘇生科、救急科、医療安全管理部など幅広い診療科(部)の医師、経験豊富な薬剤師とすでに特定行為研修を修了し本院で活動する看護師が研修の指導を行うことです。開講から半年が経過し研修生はe-ラーニングや演習、実習などに追われていますが、指導医のわかりやすい説明や研修生の疑問に丁寧に対応していただき学びの多い充実した研修になっています。

今後は、多くの優れた特定行為研修修了者を輩出すること、また、地域の看護職の受講も視野に入れています。大学病院として高度急性期から在宅医療を支える人材を育成し、地域の医療・看護への貢献と現在、大きな問題となっている医師の働き方改革の一助となるよう取り組んでいきます。



病理部 ISO15189拡大認定

～がんゲノム医療拠点病院を目指して～

令和3年10月、本院病理部はISO15189認定を取得しました。1月に先に認証された「臨床検査・輸血部」に続き「病理部」が加わる拡大認定となりました。

主にがん組織を用いて、がんにかかわる数百の遺伝子を同時に調べ、患者様一人ひとりのがんがどのような遺伝子異常から起きているのかを突き止め、その遺伝子異常に応じた治療である「がんゲノム医療」が行われるようになってきました。この原因遺伝子異常を探す検査を「がん遺伝子パネル検査」と言い、「標準治療がない」「原発不明がん」「希少がん」「小児がん」を対象に、令和元年6月に保険適用になりました。「がんゲノム医療」を受けられる施設は、平成30年に厚労省により認定をうけた全国12か所の「がんゲノム医療中核拠点病院」とそこに紐づき連携して治療にあたる「がんゲノム医療連携病院」です。また、令和元年には、その中間に位置し単独で治療方針の決定ができる全国34か所の「がんゲノム医療拠点病院」が選定されました。現在、本院は北海道大学病院の連携病院ですが、「がんゲノム医療拠点病院」の認定要件の一つである病理部のISO認定を取得し今後拠点病院への「格上げ」を目指します。高度先進医療を支え、患者様に安心・安全な医療を提供する旭川医大病院の一部門として病理部一丸となって取り組んでまいります。

第1回スチューデントナース認定式の挙

令和3年11月1日、第1回となる看護学科スチューデントナース認定式を挙行しました。

看護学科OSCEは、看護学・演習で学んだ知識・技術・態度を再確認し統合していくことで、第3学年からの臨地実習で活用できる看護実践の基礎的能力をつけることを目的に試験が行われます。合格した学生にはスチューデントナースの称号が付与されます。

看護学科OSCEが大切にしていることに、試験前に行う技術トレーニングがあります。試験に合格することが目的ではなく、技術トレーニングから試験を通して「できなかったこと」をできるようにして、「できたこと」はさらに看護の力になるよう臨地実習に向けて準備を続けます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、一時はトレーニングも制限されました。しかし、学生は限られた時間の中でコツコツと努力を重ね、試験時は最大のパフォーマンスを発揮していました。

認定式では、看護学科服部教授より代表の学生へスチューデントナース認定書とバッジが授与されました。続いて、バッジ作成を担当した学生からデザインの由来についてお話がありました。旭川を象徴する植物のナナカマドとツツジが描かれています。安全と情熱をもって看護を提供したいとの願いが込められています。



地元企業とともに発信する国内初の

多施設共同臨床研究が進行中

一つでも多くの命をつなぐために

移植でしか助からない患者さんは、数多く、一方、ドナー不足は深刻です。その解消のために、移植可能境界領域の臓器提供(マージナルドナー)の適応が進み、移植への挑戦が世界中で行われています。同時に、本当に移植可能なものの機能評価方法や、機能を回復させることができないだろうかという研究が欧米で盛んになりました。その一つが移植臓器を体外におき、保存液を機械で循環させる保存方法、機械灌流保存方法と申しますが、現在、世界で最も、脚光を浴びる移植研究分野です。

本学移植医工学治療開発講座では、この機械灌流保存システムを、東京都立大学、国立成育医療研究センター、北見工業大学などと共同実験を行い、平成29年より中央精工株式会社(旭川)を主体として、泉工医科工業株式会社(東京)と開発に取り組んできました。そして、適度の酸素化や酸化ストレス阻害剤により機能を回復させることなどを報告してきました。令和2年、この国産初の装置を用いた多施設共同臨床研究が旭川医大ならびに東北大学、虎の門病院、藤田医大、東京医大が参加し、各倫理委員会承認されました。国内第一例は東北大学外科で令和2年8月に行われ、NHKおはよう日本でとりあげられました。令和4年1月まで、亡くなられたドナーから、機械灌流保存ののちの腎移植が11例に行われました。患者さんは全例、透析を離脱し順調な経過をたどっております。貴重な移植臓器は、旭川から発信した保存装置で確実に命をつなぐことができています。

オリンピック、パラリンピック活動報告

令和3年7～9月に東京・札幌で開催された東京2020オリンピック・パラリンピックに本学スポーツ医学科学研究委員会所属の医師3名及び理学療法士4名が医療スタッフとして参加しました。

医師3名の活動内容は、1名は女子バレーボール日本代表のチームドクターとして、他2名は、トライアスロン競技、パラトライアスロン競技、パラ陸上競技、シッティングバレーボール競技、車椅子ラグビー競技会場の5会場で選手用医療ドクターとして参加しました。

理学療法士4名は、札幌で行われたマラソン・競歩競技会場、車椅子ラグビー競技会場で選手用医療スタッフとして参加しました。

特に猛暑の中、札幌で行われたマラソン・競歩競技会場では、周囲のスタッフと協力し、熱中症の対応など専門性を遺憾なく発揮しました。

今後も、国際大会などで活躍できるよう研鑽しつつ、市民公開講座等で社会に情報発信を行っていききたいと思います。

トリアージセンターの運用開始

通常時には多目的に使用でき、災害発生時や感染症流行時には検査や患者さんのトリアージスペース等に活用できる施設として、国立大学法人施設整備費補助金(附属病院施設整備に係る令和2年度第3次補正予算)附属病院多用途型トリアージスペース整備事業により、病院敷地内に別棟として令和3年9月にトリアージセンターを新設しました。

本院ではこれまで、感染力の強い新型コロナウイルスの変異ウイルス「オミクロン株」の感染拡大により、既存の発熱外来を受診する方が急増していたところですが、本学病院職員や臨床実習中の学生が検査を必要とする場合など、感染が疑われる外来患者の一部については、当該センターのみで診察を完了できるよう、運用に係る検討を重ね、体制・機器を整えた上で、令和4年2月から本格的な運用を開始しました。



その他

- たいせつ安心 i 医療ネットワークに参加(平成26年から)
- 教員の10%に年俸制を導入(平成27年から)
- 「橋渡し研究戦略的推進プログラム」に「新規医療技術の持続的創出を実現するオープンアクセス型拠点形成」プロジェクトの拠点として採択(平成29年から)
- がん相談支援センターとハローワークによるがん患者のための就労支援(平成29年から)
- メンター制度導入(平成30年から)
- 就業管理システム及び顔認証及びICカードによる職員の出退勤管理システムを導入(令和2年から)

研究成果トピックス

本学では未来の医療につながる研究成果を様々な分野の講座から発信しています。ここでは、その一部をご紹介します。

自己血小板を使った肝がん治療 血小板でがん細胞を騙し討ち

病理学講座腫瘍病理分野 田中 宏樹

本研究では、薬剤での治療が困難とされている肝がんを標的とした新たな治療法を考案し、その効果を実証しました。

「血小板が肝がん組織内で活性化し、「がん」を成長させる」という性質を利用し、治療薬を「血小板」に抱き込ませて運び、「がん」に効率的に作用させるという治療法を考案し、動物モデルでその効果を実証したものです。

皆さんは、学校の理科、漫画やアニメで、血液中の酸素を運ぶ「赤血球」、病原体と戦う「白血球」、そして、ケガなどにより血管が壊れたところに集まり、過剰な出血を防ぐ「血小板」について知る機会があることでしょう。「血小板」は、出血を防ぐ働きに他に傷口を修復するための細胞増殖因子を周りに放出して、ケガの治癒を早める役割も担っています。実は、体の中にできた「がん」は「血小板」のこのような作用を悪用し、「がん」の近くで「血小板」を活性化させ、放出された細胞増殖因子を利用して成長します(図1 上段)。

我々は、この「がん」が「血小板」を利用して成長する」という性質を逆手に取り、「血小板」の中に治療薬が含まれていれば、「がん」が騙されて「治療薬」を抱き込んだ血小板」を活性化させ、そこから放出された治療薬の作用を受けることになり、結果的に治療につながるのではないかと考えました。

発がん物質を用いて肝がんを誘導したラットから採血を行い、そこから「血小板」を分離し、その「血小板」に体外で治療薬を取り込ませました。このように処置した「治療薬を抱き込んだ血小板」を元の個体に注射する作業を繰り返すと、明らかに肝がんの組織が強く破壊され、治療薬による効果が証明できました(図1 下段)。例えるなら、スパイ教育を受けた「血小板」が、「がん」の組織に潜入し、利用されるフリをして治療薬を放出し、内部から「がん」を破壊したと言えます(図2)。つまり、「がん」との血小板をめぐる「騙し合い」に勝ち、「がん」を討ち取った」ということです。

この結果を臨床に置き換えて考えると、肝がん患者さんから「血小板」を分離し、治療薬を取り込ませて、再び投与すると、副作用が少なく、効率よく「がん」に治療薬を作用させると期待できます。

○この研究成果は令和3年12月にUICC(Union for International Cancer Control:国際対がん連合)の機関誌International Journal of Cancerに掲載されました。

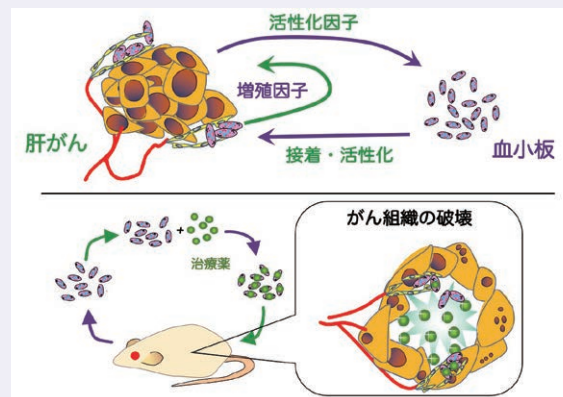


図1

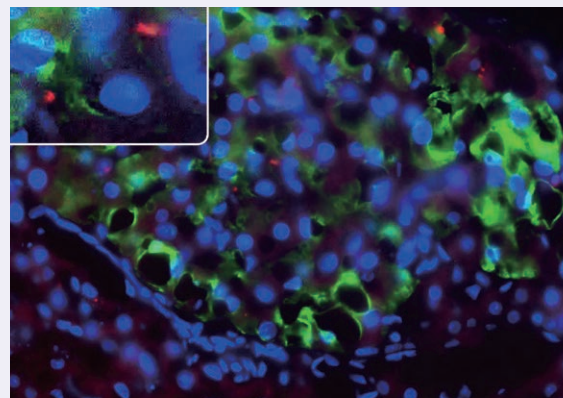
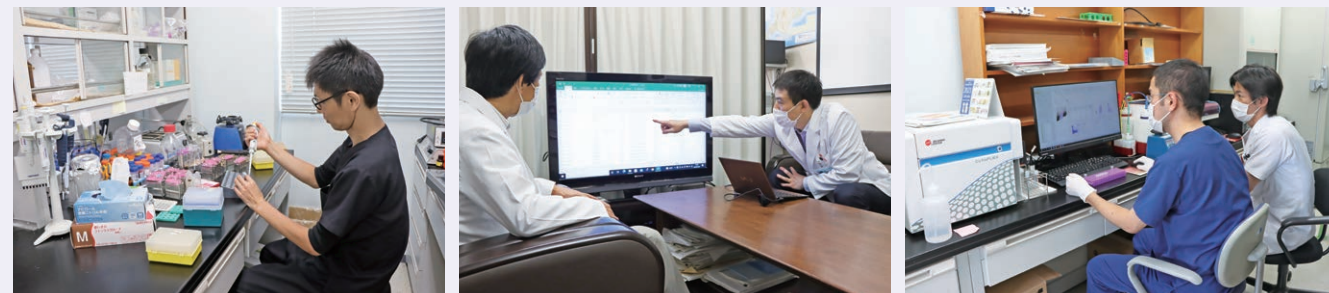


図2 ラットの肝がんと血小板
緑色の領域が肝がんの組織で、赤色の点がそこに潜入した血小板です。



癌の免疫逃避を打破する治療法の開発～抗原提示細胞に癌細胞をたくさん食べてもらう～

病理学講座免疫病理分野 大栗 敬幸

癌に対する免疫系の反応機構の解明は新しい癌治療の開発に繋がります。癌細胞に対する免疫応答を誘導するには癌細胞の情報が抗原提示細胞を通じてT細胞に効率よく伝えられる必要があります。これは、抗原提示細胞が癌細胞を貪食・消化し、癌細胞の一部をペプチド断片としてアンテナ(主要組織適合抗原:MHC)に提示し、T細胞を活性化させることを意味しています。しかし、癌組織では癌細胞から産生される因子や貪食抑制分子(CD47)の過剰発現により抗原提示細胞の貪食能が低下します。つまり、癌組織内の免疫抑制環境が改善されなければ、癌の増殖を抑えるほどの十分な免疫応答は誘導されません。核酸誘導体であるcGAMPはSTING(Stimulator of interferon genes)を介してI型インターフェロンなどの炎症性サイトカインを誘導し免疫系を活性化します。当研究室では、これまでに癌組織にcGAMPを直接投与することによって、活性化マクロファージ(抗原提示細胞の一部)がSTING依存的に癌組織内に集積することを明らかにしています。

本研究では、「免疫活性化剤(cGAMP)」と「CD47を抑える抗体(抗CD47抗体)」を癌組織に同時に投与し、貪食能を保持した抗原提示細胞を末梢から癌組織に呼び寄せ、かつ、癌細胞の貪食抑制機構を抑えることで、抗原提示細胞からT細胞への癌細胞情報が効率的に伝達され強力な癌特異的免疫応答が誘導されることを証明しました(図)。また、本研究では乳癌のCD47発現が高い患者さんの生命予後が悪いことも明らかにしており、癌細胞の貪食抑制機構を標的とした癌免疫治療法の臨床応用が期待されます。

○この研究成果は令和3年11月にRockefeller University Press社の科学雑誌Journal of Experimental Medicineに掲載されました。

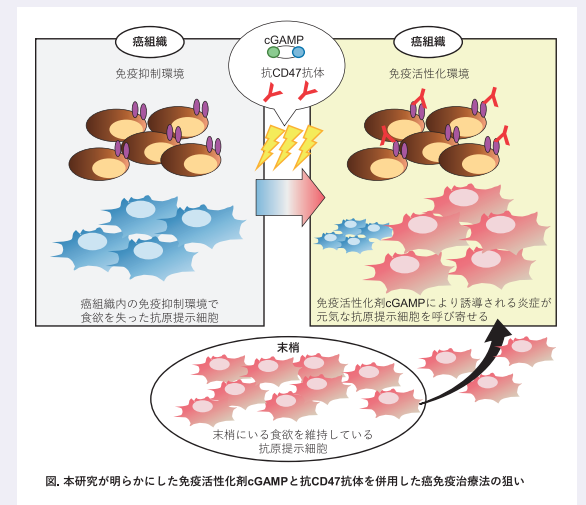


図. 本研究が明らかにした免疫活性化剤cGAMPと抗CD47抗体を併用した癌免疫治療法の強い

ダブトマイシンとスタチンの併用で横紋筋融解症のリスク上昇

—併用時の副作用リスク上昇をメタ解析と医療ビッグデータ解析を組み合わせた手法で解明—

薬剤部 中馬 真幸、田崎 嘉一

私たちは、臨床現場で生じた疑問に対して、近年注目されている医療ビッグデータ解析を用いて研究を行っています。今回、メタ解析と医療ビッグデータ解析を組み合わせた手法を用いて、スタチン系薬の併用がダブトマイシン(DAP)による横紋筋融解症の発症リスクを上げることが解明しました。

DAPは、薬剤耐性菌による代表的な感染症であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症の治療薬です。スタチン系薬は、心筋梗塞や脳卒中のリスクとなる高脂血症の治療に用いられます。いずれの薬剤も筋障害の副作用を起こし、中でも重篤で致死率の高い横紋筋融解症をまれに発症します。しかし、両剤の併用によって筋障害の発症リスクが上昇するか否かは明らかになっておらず、臨床現場で問題になっていました。

私たちは、複数の臨床研究を統合して解析するメタ解析と膨大な臨床情報が蓄積されている医療ビッグデータの解析を融合して、ダブトマイシン関連筋障害に対するスタチン系薬併用の影響を評価しました。

メタ解析の結果、DAPによる横紋筋融解症の発症リスクは、スタチン系薬の投与により3.83倍高くなることがわかりました。続いて、世界最大規模の副作用自発報告データベースFAERS(FDA Adverse Event Reporting System)を解析した結果、DAPによる横紋筋融解症の報告率はスタチン系薬の投与で有意に増加しました。以上の解析から、スタチン系薬を併用すると、ダブトマイシンによる横紋筋融解症の発症リスクが上昇することが明らかとなりました。

本研究の知見は、治療薬の選択や副作用モニタリングを通じて、適切な抗菌薬治療に活用できるでしょう。また、本研究で用いた手法は、薬剤併用による副作用や効果に対する研究に広く応用可能と考えられます。

○この研究成果は令和4年3月に米国感染症学会の機関誌Clinical Infectious Diseases(CID)誌に掲載されました。



図. 本研究で明らかにしたダブトマイシン関連横紋筋融解症に対するスタチンの影響

沿革

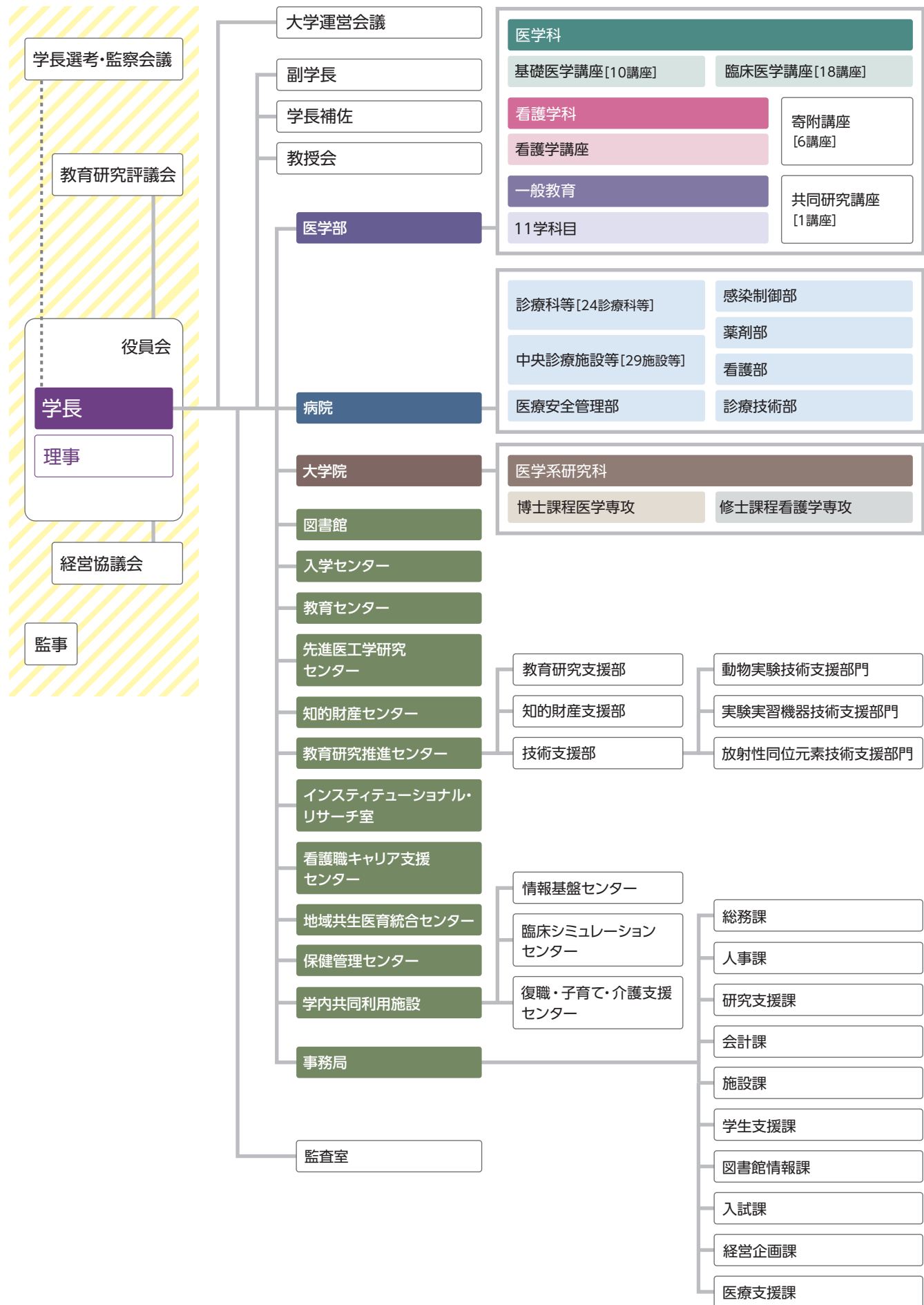
昭和47年7月1日	旭川医科大学創設準備室設置
昭和48年9月29日	旭川医科大学設置 (旭川医科大学創設準備室廃止)
11月5日	第1回(48年度)入学式挙行
11月20日	開学記念祝典挙行
昭和50年4月1日	附属病院創設準備室設置
11月1日	放射性同位元素研究施設設置(学内措置)
昭和51年5月10日	医学部附属病院設置 (附属病院創設準備室廃止)
10月26日	医学部附属病院開院記念祝典挙行
11月1日	医学部附属病院開院
昭和53年4月1日	医学部附属動物実験施設設置
昭和54年3月24日	第1回(53年度)卒業証書授与式挙行
4月1日	大学院医学研究科設置
昭和56年4月1日	医学部附属実験実習機器センター設置
昭和58年3月25日	第1回(57年度)学位記授与式挙行
6月15日	開学10周年記念式典挙行
昭和59年4月12日	保健管理センター設置
昭和60年4月1日	歯科口腔外科学講座開設
昭和61年4月22日	医学部附属病院病理部設置
昭和63年5月25日	臨床検査医学講座開設
平成元年6月28日	医学部附属病院輸血部設置
平成4年4月10日	医学部附属病院救急部設置 麻酔学講座を麻酔・蘇生学講座に改称 (麻酔科を麻酔科蘇生科に改称)
平成5年6月11日	寄附講座 「臨床薬理学(ツムラ)講座」開設 [～平成11年3月31日]
11月5日	開学20周年記念式典挙行
平成6年5月20日	医学部附属病院集中治療部設置
平成8年4月1日	医学部看護学科設置
平成10年4月1日	医学部附属病院医療情報部設置
平成11年4月1日	情報処理センター設置(学内措置) 遠隔医療センター設置(学内措置)
平成12年4月1日	大学院医学研究科を 大学院医学系研究科に改称 大学院医学系研究科に 修士課程看護学専攻を設置 細菌学講座を微生物学講座に改称
5月1日	医学部附属病院治験支援センター設置
平成13年4月25日	遺伝子診療カウンセリング室設置

9月12日	医学部附属病院卒後臨床研修センター設置
平成14年4月1日	耳鼻咽喉科学講座を 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座に改称 看護学科3大講座制を1大講座制に改組 救急医学講座開設 アドミッションセンター設置 医学部附属病院総合診療部設置
8月1日	医学部附属病院医療安全管理部設置
平成15年4月1日	衛生学講座、公衆衛生学講座を 健康科学講座に改組 哲学、歴史を歴史・哲学に改組 医学部附属病院周産母子センター設置 医学部附属病院経営企画部設置
11月5日	開学30周年記念式典挙行
平成16年4月1日	国立大学法人旭川医科大学発足 アドミッションセンターを入学センターに改組
平成17年4月1日	寄附講座「消化管再生修復医学講座」開設 [～平成28年3月31日] 寄附講座「眼組織再生医学講座」開設 [～令和3年12月31日]
8月1日	医学部附属病院検査部、輸血部を 臨床検査・輸血部に統合
11月1日	医学部附属病院を旭川医科大学病院に変更
11月7日	病院点滴センター設置
平成18年1月1日	病院地域医療総合センター設置
4月1日	医学科基礎医学1大講座及び12講座を 5大講座及び4講座に、臨床医学19講座を 2大講座及び14講座に再編
	寄附講座「人工関節講座」開設 [～令和5年3月31日] 病院光学医療診療部設置 病院理学療法室を理学療法部へ改組
11月8日	教育センター設置
平成19年1月1日	病院感染制御部設置
5月1日	病院腫瘍センター設置
平成20年2月13日	病院診療技術部設置
4月1日	寄附講座「医工連携総研講座」開設 [～令和5年3月31日]
5月15日	病院呼吸器センター設置

9月1日	寄附講座 「心血管再生・先端医療開発講座」開設 [～令和3年8月31日]
平成21年7月8日	病院緩和ケア診療部設置
8月1日	病院栄養管理部設置
9月9日	臨床シミュレーションセンター設置
12月1日	泌尿器科学講座を腎泌尿器外科学講座に改称
12月9日	病院入退院センター設置
平成22年2月17日	地域医療教育学講座設置
3月24日	脳機能医工学研究センター設置
4月1日	復職・子育て・介護支援センター (二輪草センター)設置 寄附講座 「循環呼吸医療再生フロンティア講座」 開設[～平成28年3月31日] 情報処理センターを情報基盤センターに改称
4月21日	知的財産センター設置
10月1日	病院救急部を救命救急センターに改組 病院救急科設置
平成23年4月1日	教育研究推進センター設置 動物実験施設、実験実習機器センター、 放射性同位元素研究施設を教育研究推進 センターの技術支援部に改組
5月1日	病院リハビリテーション科設置
11月1日	病院乳腺疾患センター設置 病院理学療法部をリハビリテーション部に改組
平成24年9月1日	寄附講座 「臨床消化器・肝臓学診療連携講座」開設 [～平成28年3月31日]
10月1日	地域がん診療連携講座設置
11月14日	病院透析室を透析センターに改組
平成25年11月5日	開学40周年記念式典挙行
平成26年9月10日	病院病理診断科設置
平成27年1月14日	病院臨床研究支援センター設置
平成28年4月1日	外科学講座に心臓大血管外科学分野設置
4月13日	インスティテューショナル・リサーチ室設置
10月1日	旭川医科大学基金創設 寄附講座 「頭頸部癌先端的診断・治療学講座」開設 [～令和5年3月31日]

平成29年4月1日	健康科学講座を社会医学講座に改称 寄附講座 「地域医療支援および専門医育成推進講座」 開設[～令和5年3月31日]
5月17日	病院超音波画像診断センター設置
8月1日	寄附講座「移植工医学治療開発講座」開設 [～令和4年7月31日]
平成30年3月14日	病院専門医育成・管理センター設置
4月1日	共同研究講座 「遠隔医療・介護共同研究講座 ～IoT クラウド利用のグローバルモデル構築～」 開設[～令和3年3月31日] 病院点滴センターを 外来化学療法センターに改称
4月11日	先端医科学講座開設
5月1日	共同研究講座「消化器先端医学講座」開設 [～令和5年3月31日]
9月5日	外科学講座の消化器病態外科学分野を 肝胆膵・移植外科学分野、消化管外科学 分野に改組
10月17日	病院高難度医療管理センター設置
平成31年3月27日	看護職キャリア支援センター設置
4月10日	医育統合センター設置
令和元年6月12日	病院がん遺伝子診療部設置
10月1日	寄附講座 「糖尿病・生活習慣病予防治療学講座」開設 [～令和3年9月30日]
10月9日	病院国際医療支援センター設置
12月18日	病院脳卒中センター設置
令和2年3月1日	脳機能医工学研究センターを 先進工学研究センターに改称
5月13日	医育統合センターを 地域共生医育統合センターに改称
6月18日	内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学 分野に消化器・内視鏡学部門、 がんゲノム医学部門設置
11月11日	第二内科、第三内科を 内科(代謝・免疫・消化器・血液)へ改組
12月9日	病院形成外科設置
令和3年1月1日	生化学講座細胞制御科学分野と 統合生命科学分野を生化学講座へ改組
10月1日	寄附講座 「心血管再生・先端医療開発講座」開設 [～令和6年9月30日]
令和4年3月5日	看護学科開設25周年記念式典挙行

組織機構図



役職員・歴代学長等

国立大学法人旭川医科大学

役員

学長
西川 祐司
NISHIKAWA Yuji

理事

医師の働き方改革 古川 博之
FURUKAWA Hiroyuki

教育、評価 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

財務、企画 辻 泰弘
TSUJI Yasuhiro

地域医療 佐古 和廣
SAKO Kazuhiro

監事

業務 鈴木 義幸
SUZUKI Yoshiyuki

会計 桶 利光
OKE Toshimitsu

経営協議会委員

学長 西川 祐司
NISHIKAWA Yuji

理事 古川 博之
FURUKAWA Hiroyuki

理事 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

理事 辻 泰弘
TSUJI Yasuhiro

江別市立病院事業管理者 長谷部 直幸
HASEBE Naoyuki

旭川信用金庫理事長 原田 直彦
HARADA Naohiko

房川・平尾法律事務所 弁護士 房川 樹芳
FUSAGAWA Kiyoshi

NPO法人 旭川文学資料友の会 副会長 白井 恵理子
SHIRAI Eriko

公立芽室病院院長 研谷 智
TOGIYA Satoshi

教育研究評議会評議員

学長 西川 祐司
NISHIKAWA Yuji

理事 古川 博之
FURUKAWA Hiroyuki

理事 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

理事 辻 泰弘
TSUJI Yasuhiro

理事 佐古 和廣
SAKO Kazuhiro

副学長 川辺 淳一
KAWABE Junichi

副学長 松本 成史
MATSUMOTO Seiji

副学長 本間 大
HONMA Masaru

図書館長 三好 暢博
MIYOSHI Nobuhiro

医学部医学科長 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

医学部看護学科長 服部 ユカリ
HATTORI Yukari

医学部看護学教授 西條 泰明
SAIJO Yasuaki

臨床医学講座教授 東 信良
AZUMA Nobuyoshi

看護学教授 阿部 修子
ABE Shuko

一般教育教授 高橋 龍尚
TAKAHASHI Tatsuhisa

事務局長 佐々木 順三
SASAKI Junzo

[旭川医科大学]

学長 西川 祐司
NISHIKAWA Yuji

副学長 古川 博之
FURUKAWA Hiroyuki

副学長 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

副学長 川辺 淳一
KAWABE Junichi

副学長 松本 成史
MATSUMOTO Seiji

副学長 本間 大
HONMA Masaru

学科長 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

医学部医学科長 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

医学部看護学科長 服部 ユカリ
HATTORI Yukari

大学院博士課程 医学専攻長 奥村 利勝
OKUMURA Toshikatsu

大学院修士課程 看護学専攻長 服部 ユカリ
HATTORI Yukari

学長補佐 服部 ユカリ
HATTORI Yukari

学長特別補佐 藤尾 均
FUJIO Hitoshi

令和4年7月1日現在

法人役員数

令和4年5月1日現在

学長	理事	監事	合計
1	4(2)	2(1)	7(3)

※()内は非常勤役員で内数。

大学職員数

令和4年5月1日現在

区分	学長	副学長	教員					（事務・技術職員）	（一般職） （技能・労務職員）	医療技術職員	看護職員	合計
			教授	准教授	講師	助教	計					
学長・副学長	1	5(3)									6(3)	
医学部	講座		37	29	28	86	180	4			184	
	学科目		6	6	1	4	17				17	
病院			6	8	33	97	144	2	6	176	745	
室・センター等			5	3	4	8	20	10			31	
監査室								2			2	
事務局	事務局長							1			1	
	職員							172	1		173	
計	1	5(3)	54	46	66	195	361	191	7	176	746	

※法人役員(学長、副学長)を含む。※()内は教授と兼務で内数。

寄附講座教員数

令和4年5月1日現在

区分	教授	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	合計
人工関節講座	(1)			(1)	1(1)	1(3)
医工連携総研講座			1	(1)		1(1)
心血管再生・先端医療開発講座			(1)		1(1)	1(2)
頭頸部癌先端の診断・治療学講座			(1)	(1)		(2)
地域医療支援および専門医育成推進講座	(1)			1		1(1)
移植工医学治療開発講座		(1)			1	1(1)
計	(2)	1(1)	(3)	1(2)	3(2)	5(10)

※()内は臨床講座教員と兼務で外数。

共同研究講座教員数

令和4年5月1日現在

区分	教授	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	合計
消化器先端医学講座	(1)				2	2(1)
計	(1)	0	0	0	2	2(1)

※()内は臨床講座教員と兼務で外数。

歴代学長	初代学長	山田 守英	YAMADA Morihide	[昭和48年 7月29日 ~ 昭和56年 6月30日]
	第二代学長	黒田 一秀	KURODA Kazuhide	[昭和56年 7月 1日 ~ 昭和62年 6月30日]
	第三代学長	下田 晶久	SHIMODA Akihisa	[昭和62年 7月 1日 ~ 平成 3年 6月30日]
	第四代学長	清水 哲也	SHIMIZU Tetsuya	[平成 3年 7月 1日 ~ 平成 9年 6月30日]
	第五代学長	久保 良彦	KUBO Yoshihiko	[平成 9年 7月 1日 ~ 平成15年 6月30日]
	第六代学長	八竹 直	YACHIKU Sunao	[平成15年 7月 1日 ~ 平成19年 6月30日]
	第七代学長	吉田 晃敏	YOSHIDA Akitoshi	[平成19年 7月 1日 ~ 令和 4年 3月 3日]
	第八代学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	[令和 4年 4月 1日 ~]

講座及び学科目等

医学部

医学部	基礎医学 [10講座]	臨床医学 [18講座]	看護学科 [1講座]	一般教育 [11学科目]	寄附講座 [6講座]	共同研究講座 [1講座]
[28講座]	<ul style="list-style-type: none"> ■ 解剖学講座 <ul style="list-style-type: none"> ・機能形態学分野 ・顕微解剖学分野 ■ 生理学講座 <ul style="list-style-type: none"> ・自律機能分野 ・神経機能分野 ■ 生化学講座 ■ 薬理学講座 ■ 病理学講座 <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍病理分野 ・免疫病理分野 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 微生物学講座 ■ 社会医学講座 <ul style="list-style-type: none"> ・衛生学・健康科学分野 ・公衆衛生学・疫学分野 ■ 寄生虫学講座 ■ 法医学講座 ■ 先端医科学講座 	■ 看護学講座	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史・哲学 ■ 心理学 ■ 社会学 ■ 数学 ■ 数理情報科学 ■ 物理学 ■ 化学 ■ 生物学 ■ 生命科学 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人工関節講座 ■ 医工連携総研講座 ■ 心血管再生・先端医療開発講座 ■ 頭頸部癌先端の診断・治療学講座 ■ 地域医療支援および専門医育成推進講座 ■ 移植工医学治療開発講座 	
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 内科学講座 <ul style="list-style-type: none"> ・循環・呼吸・神経病態内科学分野 ・病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野 <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病内科学部門 ・リウマチ・膠原病内科学部門 ・消化器・内視鏡学部門 ・がんゲノム医学部門 ・血液内科学部門 ・総合診療部門 ■ 皮膚科学講座 ■ 腎泌尿器外科学講座 ■ 眼科学講座 ■ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 ■ 産婦人科学講座 ■ 放射線医学講座 ■ 精神医学講座 ■ 麻酔・蘇生学講座 ■ 小児科学講座 ■ 脳神経外科学講座 ■ 外科学講座 <ul style="list-style-type: none"> ・血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 ・心臓大血管外科学分野 ・肝胆膵・移植外科学分野 ・消化管外科学分野 ■ 臨検検査医学講座 ■ 歯科口腔外科学講座 ■ 救急医学講座 ■ 地域医療教育学講座 ■ 整形外科学講座 ■ 地域がん診療連携講座 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 英語 ■ ドイツ語 	■ 消化器先端医学講座		

大学院

医学系研究科	課程	専攻	コース名	領域名
	博士課程	医学	研究者コース	腫瘍・血液病態学、社会・環境医学、免疫・感染症病態学、感覚器・運動器病態学、内分泌・代謝病態学、神経・精神医学、循環器・呼吸器病態学、消化器病態学、分子生理・薬理学、生殖・発達・再生医学
			臨床研究者コース	臨床腫瘍・血液学、臨床環境・社会医学、臨床免疫・感染症学、臨床感覚器・運動器学、臨床内分泌・代謝学、臨床神経・精神医学、臨床循環器・呼吸器学、臨床消化器学、臨床薬理・分子生理学、臨床生殖・発達・再生医学
	修士課程	看護学	修士論文コース	看護管理学、基礎看護科学、生体防御学、看護教育学、精神保健看護学、公衆衛生看護学、健康教育開発学、小児・家族看護学、母性看護学・助産学、高齢者看護学、成人看護学、基礎看護学、在宅看護学
			高度実践コース	がん看護学、高齢者看護学

学生数等・学年暦

入学志願者数・入学者数

区分	医学科			看護学科			
	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	
令和4年度	総合型選抜	北海道特別選抜	32	110	32		
		国際医療人特別選抜	5	17	5		
	学校推薦型選抜	道北・道東特別選抜			10	36	10
	前期	40	178	40	40	62	40
	私費外国人留学生	若干人	2	0	若干人	0	0
	後期	8	221	8	10	92	10
	編入(地域枠)	10(5)	140(28)	10(5)			
令和3年度	総合型選抜	北海道特別選抜	32	106	32		
		国際医療人特別選抜	5	22	5		
	学校推薦型選抜	道北・道東特別選抜			10	34	10
	前期	40	279	40	40	100	40
	私費外国人留学生	若干人	3	0	若干人	0	0
	後期	8	100	8	10	126	10
	編入(地域枠)	10(5)	110(27)	10(5)			

学生数

区分	入学定員	現員							計
		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年		
医学科	105 (2年次編入学定員10を含む)	男	56	76	57	66	95	75	425
		女	41	47	33	50	38	49	258
		計	97	123	90	116	133	124	683
看護学科	60	男	9	2	3	6			20
		女	51	58	58	55			222
		計	60	60	61	61			242

学年暦

■ 学年始	4月1日
■ 入学式	4月6日
前期	4月1日～9月30日
■ 夏季休業	7月4日～9月16日
後期	10月1日～3月31日
■ 本学記念日	11月5日
■ 冬季休業	12月12日～1月20日
■ 白衣式	1月12日
■ 春季休業	2月20日～4月6日
■ 学士・修士・博士学位記授与式	3月24日
■ 学年終	3月31日

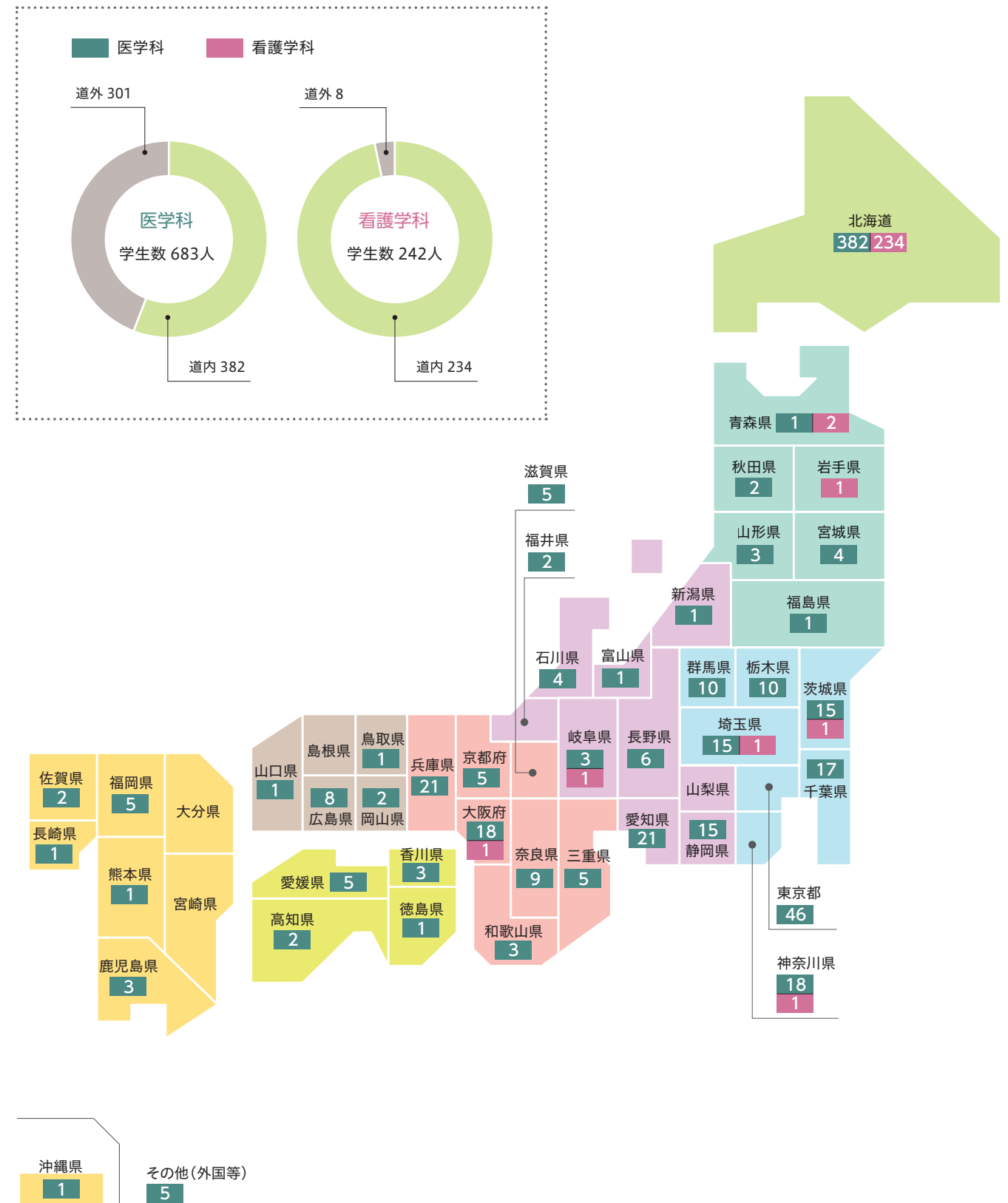


白衣式

※長期休業期間は学科・学年によって異なります。
 ※令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により変更の可能性があります。

出身高校都道府県別学生数一覧

令和4年4月1日現在



奨学生数

令和3年度実績

区分	学科・課程	本学独自の奨学金	日本学生支援機構奨学金		その他の自治体等奨学金
			給付型	貸与型	
医学部	医学科	1	34	193	8
	看護学科	77	32	110	-
大学院	博士課程	4	0	0	0
	修士課程	1	0	0	0

【本学独自の奨学金】

医学科学生に対する奨学資金(2011年4月創設)

看護学科学生に対する奨学資金(2008年4月創設)

大学院学生に対する奨学金(2008年4月創設)

【その他の自治体等奨学金】

富良野市医師養成確保修学資金

深川市奨学資金

遠軽町奨学資金

その他の本学学費等支援制度

- 授業料減免制度
- 授業料特別貸与制度(2011年4月創設)
- 学部学生海外活動助成制度(2010年4月創設)
- 学部学生海外留学助成制度(2010年5月創設)
- 卒業生に対する奨学資金貸与制度(2011年4月創設)
- 初期臨床研修医に対する奨学金(2012年4月創設)

卒業生数

		～平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	計
医学科	男	3,275	87	66	70	3,498
	女	988	43	39	53	1,123
	計	4,263	130	105	123	4,621
看護学科	男	93	1	5	6	105
	女	1,225	58	55	55	1,393
	計	1,318	59	60	61	1,498
合計		5,581	189	165	184	6,119

国家試験合格者数

区分		令和2年	令和3年	令和4年
医師	受験者数	151	115	133
	合格者数	141	103	121
	合格率(%)	93.4	89.6	91.0
保健師	受験者数	12	5	7
	合格者数	12	5	7
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
助産師	受験者数	4	4	3
	合格者数	4	4	3
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
看護師	受験者数	59	61	61
	合格者数	58	61	61
	合格率(%)	98.3	100.0	100.0

関連教育病院等



市立旭川病院

- 診療科/25
- 病床数/478
- 臨床実習学生受入数延べ/12人



旭川赤十字病院

- 診療科/28
- 病床数/520
- 臨床実習学生受入数延べ/35人



JA北海道厚生連旭川厚生病院

- 診療科/24
- 病床数/539
- 臨床実習学生受入数延べ/92人



国立病院機構旭川医療センター

- 診療科/19
- 病床数/310
- 臨床実習学生受入数延べ/0人



旭川圭泉会病院

- 診療科/5
- 病床数/399
- 臨床実習学生受入数延べ/0人

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により外病院での臨床実習を縮小しました。

大学院医学系研究科定員・現員

令和4年5月1日現在

専攻	性別	入学定員	収容定員	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計
				10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	
博士課程	医学	15	60	4	9	4	7	2	5	12	13	56
				1	4	0	4	2	2	1	5	19
				5	13	4	11	4	7	13	18	75
修士課程	看護学	16	32	2		11						13
				7		19						26
				9		30						39

大学院10月入学の導入

大学院博士課程において、国際化の進展を図るとともに、職業を有しながら学位取得を目指す方の修学機会の多様化を推進するため、留学生、社会人を対象とした10月入学制度を、平成24年度から導入しています。

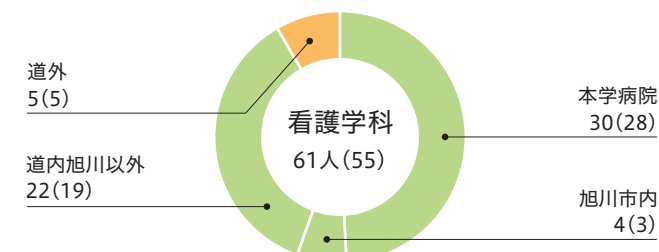
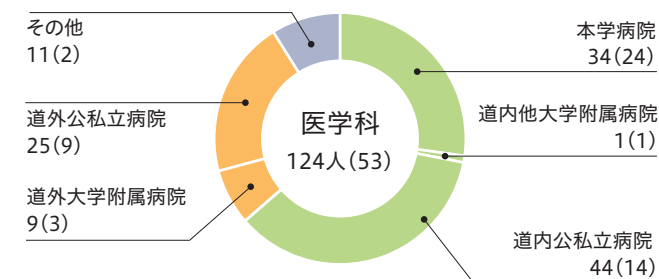
学位授与者数

令和4年5月1日現在

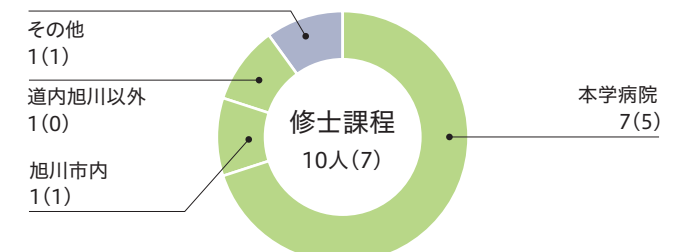
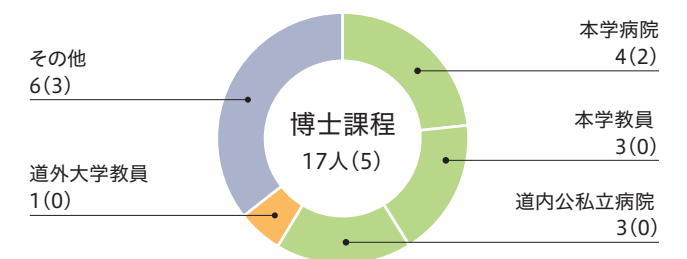
区分		～平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	計	
博士(医学)	課程博士	男	452	10	12	12	486
		女	81	4	1	5	91
		計	533	14	13	17	577
	論文博士	男	442	3	3	3	451
		女	38	1	1	1	41
		計	480	4	4	4	492
合計	1,013	18	17	21	1,069		
修士(看護学)	男	26	2	2	3	33	
	女	180	7	8	7	202	
	計	206	9	10	10	235	

令和3年度卒業生の進路

医学部



大学院



道内 道外 その他 ※()は内数で女子を示す。

研究領域等

医学科／基礎医学

講座名		主要研究領域
解剖学講座	機能形態学分野	神経解剖学、神経病理学
	顕微解剖学分野	細胞生物学、実験内分泌学、分泌顆粒形成機構の分子細胞生物学的解析
生理学講座	自律機能分野	心臓統合生理学、心臓メカニクスとメカノバイオロジー
	神経機能分野	神経科学
生化学講座		血管新生、神経再生、再生医学、細胞カルシウム代謝調節、蛋白質燐酸化による細胞機能の制御、血管平滑筋の収縮制御
薬理学講座		腫瘍生物学、分子薬理学、遺伝子制御学
病理学講座	腫瘍病理分野	肝臓病理学、分子病理学、腫瘍病理学
	免疫病理分野	腫瘍免疫学、アレルギー学、免疫学
微生物学講座		生体防御機構、免疫化学、分子微生物学
社会医学講座	衛生学・健康科学分野	衛生学、環境保健、産業保健、分子予防医学、国際保健
	公衆衛生学・疫学分野	公衆衛生学、疫学、臨床疫学、環境疫学、精神保健、産業疫学
寄生虫学講座		エキノコックス症、有鉤囊虫症分子生物学、免疫生物学、分子・免疫診断学、分子・免疫疫学、トキソプラズマ症、免疫寄生虫、遺伝子工学、細胞生物学、ベクターバイオロジー
法医学講座		法医毒性学、個人識別とDNA多型
先端医科学講座		神経科学、分子生物学、ゲノム編集、再生医学、橋渡し研究

医学科／臨床医学

講座名		主要研究領域
内科学講座	循環・呼吸・神経病態内科学分野	内科学、循環器学、呼吸器学、高血圧学、腎臓学、神経内科学、老年医学
	病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野	内科学、消化器病学、消化器内視鏡学、血液・腫瘍内科学、糖尿病・代謝学、内分泌学、膠原病学
精神医学講座		一般精神医学、生物学的精神医学、老年精神医学、認知症学、睡眠医学、てんかん学、臨床脳波学
小児科学講座		小児感染免疫学、小児内分泌学・代謝学、小児神経学、小児血液・腫瘍学、小児循環器病学、周産期医学、小児腎臓病学、てんかん学、小児消化器病学
外科学講座	血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野	血管外科、血管内治療外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科
	心臓大血管外科学分野	心臓外科、胸部大動脈外科
	肝胆膵・移植外科学分野	消化器外科[肝・胆・膵外科]、内視鏡外科、移植外科、一般外科
	消化管外科学分野	消化管外科[上部消化管(食道・胃)・下部消化管(小腸・大腸)外科]、内視鏡外科、ロボット外科、一般外科
整形外科学講座		関節外科、人工関節外科、骨軟部腫瘍の診断と治療、脊椎・脊髄外科、スポーツ整形外科、リウマチの外科、手の外科、骨粗鬆症、再生医療
皮膚科学講座		皮膚科学、乾癬、角化異常症、アトピー性皮膚炎、皮膚真菌学、皮膚腫瘍学、皮膚アレルギー学、皮膚膠原病学、美容皮膚科学、水痘症、皮膚病理組織学
腎泌尿器外科学講座		腎・尿路性器悪性腫瘍、癌化学療法、小児泌尿器科、女性泌尿器科、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石症、副腎外科、内視鏡外科、ロボット支援手術
眼科学講座		眼科学、網膜硝子体疾患、角膜移植、眼表面疾患、屈折矯正手術、網膜神経保護、眼微小循環、緑内障、眼底画像解析、ロービジョン、斜視
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座		耳鼻咽喉科学、頭頸部外科学、アレルギー学、気管食道科学、平衡感覚学、甲状腺外科、側頭骨外科、音声外科
産婦人科学講座		周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学・不妊症、女性医学
放射線医学講座		放射線診断学、放射線腫瘍学、核医学、インターベンショナルラジオロジー
麻酔・蘇生学講座		静脈麻酔薬の薬物動態、神経障害性疼痛のメカニズムと治療、周術期の血液凝固、心臓血管麻酔、気道管理、末梢神経ブロック、筋弛緩薬
脳神経外科学講座		脳神経外科、脳腫瘍、頭蓋底外科、脳血管外科、機能脳神経外科、脳血管内手術、てんかん外科、小児脳神経外科
臨床検査医学講座		臨床化学、臨床血液検査、分子診断学、遺伝子検査、超音波医学、バイオマーカー

講座名	主要研究領域
歯科口腔外科学講座	口腔癌、口腔粘膜疾患、人工歯根、顎変形症、口唇裂・口蓋裂、口腔感染症、口臭、顎関節疾患、口腔ケア、口腔顔面外傷、小児口腔外科、咀嚼障害、口腔顔面痛
救急医学講座	外傷学、中毒学、呼吸循環補助、心肺蘇生、敗血症
地域医療教育学講座	地域医療、専門医とプライマリ・ケア
地域がん診療連携講座	臨床腫瘍学、地域がん診療、がん診療連携

看護学科

講座名	主要研究領域
看護学講座	形態機能学、病態学、健康教育開発学
	基礎看護学、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学・助産学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、看護管理学、がん看護学

一般教育

学科目名	主要研究領域
心理学	実験心理学、認知神経科学、臨床心理学
社会学	医療社会学
数学	応用数学、力学系理論、計算科学
数理情報科学	医用生体工学、運動生理学、フラクタル生理学、循環生理学、微小循環学、認知科学、医学統計学
物理学	固体物理学、高温超伝導、低次元導体、量子測定理論
化学	生命と物質における非平衡非線形物理化学、ソフトマター科学
生物学	生殖生物学、染色体科学(配偶子、胚)、環境変異原研究
生命科学	細胞接着や神経変性の分子細胞生物学、アルツハイマー病予防に関する研究
英語	理論言語学、応用言語学、英語教育学

施設等

施設名	主要研究領域・業務内容		
入学センター	入学者選抜方法		
教育センター	医学看護学教育		
先進医工学研究センター	医工学(人工臓器学、再生医工学、組織工学、治療医工学、計測診断医工学)		
教育研究推進センター	教育研究支援部	橋渡し研究、臨床研究者教育、独創性のある生命科学 research 等	
	知的財産支援部	知的財産支援(知的財産センターと連携)	
	技術支援部	動物実験技術支援部門	動物の実験、飼養保管、繁殖、生殖工学
		実験実習機器技術支援部門	機器分析、生化学、分子生物学
	放射性同位元素技術支援部門	機器分析、生化学、放射性同位元素等を用いた研究	
インスティテューショナル・リサーチ室	機関研究(教学、研究・社会貢献IR)		
看護職キャリア支援センター	教育プログラム開発部門	看護教育プログラムの開発	
	キャリア支援部門	生涯学習及びキャリア形成支援	
	人事交流部門	看護学科と看護部の人事交流推進	
	地域看護職支援部門	地域包括ケアシステムの推進、地域看護職の支援	
地域共生医育統合センター	地域と共生する一貫医学教育、地域医療支援		
保健管理センター	健康管理、青年期生活習慣病予防、感染予防		
学内共同利用施設	情報基盤センター	情報ネットワーク、計算機科学	
	復職・子育て・介護支援センター	ワークライフバランス	

病院

部署名	主要研究領域・業務内容
リハビリテーション科	リハビリテーション医学、運動学、計算論的神経科学、電気生理学、物理療法学、装具学
病理診断科	外科病理学、腫瘍病理学、腫瘍免疫、分子病理学、細胞診断学
形成外科	再建外科学、創傷外科学、頭蓋顎顔面外科学、皮膚腫瘍学
光学医療診療部	消化器内視鏡、呼吸器内視鏡、治療内視鏡
腫瘍センター	がん化学療法、患者支援、がん情報管理、がん専門医療者育成
呼吸器センター	呼吸器病学、臨床腫瘍学、呼吸器外科学、感染症、アレルギー性疾患、分子生物学、呼吸生理学、肺循環、感染制御
緩和ケア診療部	緩和医療学、医療哲学、医療倫理、アドバンス・ケア・プランニング
乳腺疾患センター	乳腺疾患学、臨床腫瘍学、遺伝性乳癌
臨床検査・輸血部	臨床検査医学、輸血医学、感染制御支援、生体情報処理、生理検査、患者中心の医療、自己血輸血
手術部	手術医学、安全管理
放射線部	放射線診断学、放射線腫瘍学、放射線防護、放射線物理学、放射線技術学
材料部	医療機器の洗浄、滅菌、供給、医療材料の管理
病理部	外科病理学、腫瘍病理学、腫瘍免疫、分子病理学、細胞診断学
救命救急センター	救急医学、心肺蘇生、中毒、外傷、敗血症
集中治療部	集中治療医学、循環呼吸調節、血液浄化法
総合診療部	非臓器別総合内科学
周産母子センター	周産期医学、産科学、新生児学、周産期感染症学、小児外科学
経営企画部	病院経営分析・管理、病院情報システム、遠隔医療、医療情報ネットワーク
卒後臨床研修センター	臨床研修プログラムの整備並びに実施管理、臨床研修支援
遠隔医療センター	遠隔医療、3次元ハイビジョン動画伝送、メディカルミュージアムを用いた健康教育、クラウドシステム
臨床研究支援センター	治験(医師主導治験を含む)支援、臨床研究支援、患者申出療養
リハビリテーション部	理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学、リハビリテーション医学、運動学、生体工学
地域医療連携室	外来診療等の予約、退院支援、継続看護、地域医療機関や市町村などの相互連携の窓口となり患者さんの療養生活の向上を支援
臨床工学室	臨床工学、医用工学
遺伝子診療カウンセリング室	遺伝子診断、遺伝カウンセリング、出生前診断、発症前診断
肝疾患相談支援室	肝疾患相談
外来化学療法センター	外来化学療法
栄養管理部	臨床栄養学、栄養管理
入退院センター	入退院管理、患者支援、ベッドコントロール
透析センター	血液透析、血漿交換、血漿吸着
超音波画像診断センター	超音波医学
専門医育成・管理センター	専攻医に対する情報提供、連携施設ローテーションの調整、研修状況の調査、セミナーの開催
高難度医療管理センター	高難度新規医療技術等
がん遺伝子診療部	がん遺伝子パネル検査(包括的がんゲノムプロファイリング検査)
脳卒中センター	脳卒中学、神経科学、神経外科学、脳血管内治療学
医療安全管理部	インシデントレポートの原因分析と検証、医療事故防止対策の検討及び推進
感染制御部	感染制御
薬剤部	臨床薬剤学、臨床薬理学、神経科学
看護部	精神看護、急性期看護、慢性期看護、看護管理、看護教育、ヘルスプロモーション

旭川医科大学病院

旭川医科大学病院

基本理念

大学病院としての使命を認識し、病める人の人権や生命の尊厳を重視した先進医療を行うとともに、次代を担い、地域医療に寄与し、及び国際的にも活躍できる医療者を育成する。

目標

1. 人権や尊厳を思い遣る患者中心の医療を行う。
2. 安心・安全を心がける中で、高度な医療を提供する。
3. 予防・健康医学に取り組み、地域医療や福祉の向上に貢献する。
4. 倫理観にあふれ国際感覚に富んだ医療者を育成する。
5. 未来の医療を創造し、その成果を国内外に発信する。

機関別認証評価

旭川医科大学病院は次の認証を受けています。

病院機能評価

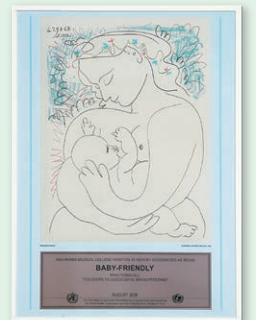
[公益財団法人 日本医療機能評価機構]



病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が適切に実施されているかを、所定の評価項目に沿って、評価調査者(サーベイヤー)から中立・公平な立場で評価されたものです。

赤ちゃんにやさしい病院

平成17年8月に、「母乳育児のための10カ条」(WHO・ユニセフによる共同声明)を実践する施設等に対する「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」の認定を受けました。道内では3番目、国立大学病院では全国で初めての認定病院となりました。



医療機関の主な指定状況等

法令等による指定の名称	指定(更新)の年月
医療法による開設許可(承認)	昭和51年
特定機能病院	平成6年10月
エイズ診療ブロック拠点病院	平成9年4月
DPC対象病院	平成15年6月
災害派遣医療チーム(DMAT)指定医療機関	平成19年9月
肝疾患診療連携拠点病院	平成21年8月
道北ドクターヘリ協力基幹病院	平成21年10月
救命救急センター	平成22年10月
地域周産期母子医療センター	平成23年3月
災害拠点病院(地域)	平成23年11月
赤ちゃんにやさしい病院	平成30年7月
がんゲノム医療連携病院	平成30年10月
ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)	令和元年10月
北海道高度がん診療中核病院	令和2年4月
病院機能評価3rdG:ver.2.0	令和2年10月
地域がん診療連携拠点病院	令和3年3月
特定行為研修指定研修機関	令和3年8月



退院患者統計

世界保健機関(WHO)が定める国際疾病分類(ICD-10)※に準じて分類

ICD-10分類	件数	率
I 感染症および寄生虫症(A00-B99)	187	1.37%
II 新生物(C00-D48)	5,068	37.07%
III 血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	91	0.67%
IV 内分泌・栄養および代謝疾患(E00-E90)	356	2.60%
V 精神および行動の障害(F00-F99)	93	0.68%
VI 神経系の疾患(G00-G99)	330	2.41%
VII 眼および付属器の疾患(H00-H59)	960	7.02%
VIII 耳および乳様突起の疾患(H60-H95)	72	0.53%
IX 循環器系の疾患(I00-I99)	1,670	12.21%
X 呼吸器系の疾患(J00-J99)	334	2.44%
XI 消化器系の疾患(K00-K93)	1,174	8.59%
XII 皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	155	1.13%
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	678	4.96%
XIV 尿路生殖器系の疾患(N00-N99)	796	5.82%
XV 妊娠・分娩および産じょく(O00-O99)	372	2.72%
XVI 周産期に発生した病態(P00-P96)	237	1.73%
XVII 先天奇形・変形および染色体異常(Q00-Q99)	303	2.22%
XVIII 症状・徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	19	0.14%
XIX 損傷・中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	597	4.37%
XX 傷病および死亡の外因(V00-Y98)	0	0.00%
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	16	0.12%
XXII 特殊目的用コード(U00-U89)	165	1.21%
計	13,673	100%

※国際疾病分類=疾病及び関連保健問題の国際統計分類



旭川市／旭橋と大雪山連峰

救急患者件数

区分	初診(人)	再診(人)	計(人)
第一内科	59	313	372
内科(代謝・免疫・消化器・血液)	40	405	445
精神科神経科	6	30	36
小児科	40	248	288
外科(血管・呼吸・腫瘍)	12	73	85
外科(心臓大血管)	50	78	128
外科(肝胆膵・移植)	8	39	47
外科(消化管)	16	80	96
整形外科	57	161	218
皮膚科	55	142	197
泌尿器科	45	118	163
眼科	40	76	116
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	100	155	255
産科婦人科	41	398	439
放射線科	0	0	0
麻酔科蘇生科	9	22	31
脳神経外科	84	167	251
歯科口腔外科	9	57	66
救急科	425	1,427	1,852
形成外科	8	14	22
計	1,104	4,003	5,107

臨床検査件数

区分	入院(件)	外来(件)	計(件)
一般検査	34,246	122,325	156,571
血液学的検査	145,401	207,219	352,620
生化学的検査	946,025	1,890,007	2,836,032
免疫学的検査	114,295	243,771	358,066
内分泌学的検査	19,215	62,395	81,610
微生物学的検査	11,997	4,571	16,568
病理学的検査	1,923	4,092	6,015
生理機能検査	78,037	75,826	153,863
その他検体検査	670	193	863
採血・採液等	1,704	79,203	80,907
内視鏡検査	812	4,093	4,905
分類コード未収載	6	13	19
その他各科特有のもの	0	0	0
計	1,354,331	2,693,708	4,048,039

麻酔件数

点数	件数
0~999	3,505
1,000~	6,649
計	10,154
神経ブロック	358

分娩件数

区分	成熟児	未熟児	計
正常分娩	138	29	167
異常分娩	99	54	153
計	237	83	320

集中治療部 診療科別入室患者数

区分	患者数
第一内科	70
内科(代謝・免疫・消化器・血液)	16
精神科神経科	0
小児科	5
外科(血管・呼吸・腫瘍)	54
外科(心臓大血管)	290
外科(肝胆膵・移植)	129
外科(消化管)	66
整形外科	3
皮膚科	3
泌尿器科	19
眼科	0
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2
産科婦人科	3
放射線科	0
麻酔科蘇生科	0
脳神経外科	137
歯科口腔外科	5
救急科	79
形成外科	5
計	886

病理学的検査件数

区分	院内	受託	計
病理組織検査	6,831	164	6,995
細胞診	5,059	0	5,059
迅速診断	432	0	432
遠隔病理画像診断	0	19	19
計	12,322	183	12,505

手術件数

点数	件数
0~999	1,683
1,000~2,999	1,591
3,000~4,999	1,014
5,000~9,999	1,539
10,000~14,999	1,893
15,000~19,999	905
20,000~	4,608
計	13,233
うち手術部で実施分	7,072

※手術件数は、外来実績を含む。

X線撮影等人数

区分	X線撮影(人)	X線透視(人)	X線CT(人)	血管造影(人)
入院患者	34,481	2,099	7,688	1,377
外来患者	58,102	1,496	21,281	412
計	92,583	3,595	28,969	1,789

放射線治療等人数

区分	放射線治療(人)	治療計画(人)	核医学(In-vivo)(人)	MRI(人)
入院患者	4,107	344	719	2,310
外来患者	6,616	330	2,539	6,837
計	10,723	674	3,258	9,147

病理解剖件数

区分	件数
死亡患者数	362 人
病理解剖数	11 件
剖検率	3 %
死産児解剖数	0 件
受託解剖数	0 件

リハビリテーション部

区分	件数
理学療法	49,081
作業療法	15,415
言語療法	9,884
計	74,380
実患者数	5,588 人

血液製剤使用数

血液製剤	単位数	バッグ数
赤血球製剤	12,533	6,313
血漿製剤	9,283	4,113
血小板製剤	25,635	1,586
自己血	345	194
計	47,796	12,206

処方せん枚数

区分	枚数
入院処方せん	107,366
外来院内処方せん	10,427
計	117,793
院外処方率	94.6 %

製剤品目数・調製数

区分	品目数	件数
内用液剤	3	11
内用散剤	3	4
錠剤・カプセル剤	0	0
注射剤	6	19
点眼・眼軟膏	12	52
点耳鼻薬・吸入	1	5
外用液剤	10	84
外用散剤	0	0
軟膏・クリーム	11	145
坐剤・膣坐剤	1	4
消毒液・洗浄・保存剤	2	12
検査・診断用剤	7	68
その他	1	0
調剤予製	5	26

服薬指導件数

区分	件数
入院中	9,493
退院時	334
持参薬チェック	12,745

薬物血中濃度解析件数

件数	1,130
----	-------

遠隔医療センター

地域間の医療格差を解消

地方の医療過疎化と、それに伴う地域間の医療格差を解消するため、旭川医科大学病院と地域病院を遠隔医療ネットワークで接続し、患者がどこに住んでいても高度な医療が受けられる体制を構築しています。

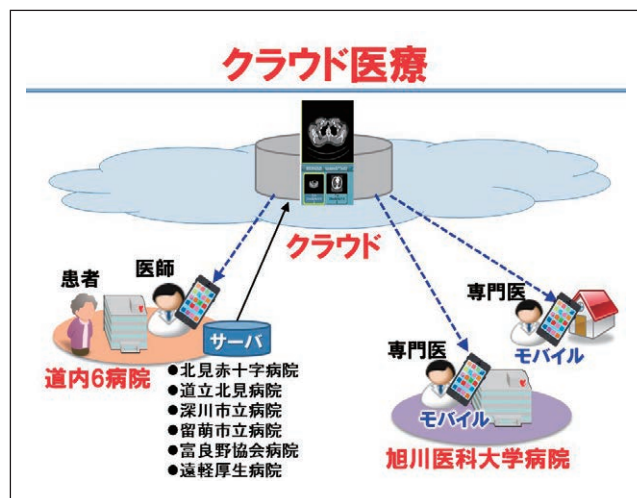
遠隔医療の実績

令和4年5月1日現在

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般診療支援	609	276	158
X線画像診断	4,776	4,917	5,422
病理画像診断	13	19	19
計	5,398	5,212	5,599

クラウド型救急医療連携支援事業

2016年10月から、道内病院(北見赤十字病院、道立北見病院、深川市立病院、留萌市立病院、富良野協会病院、遠軽厚生病院)と連携して「クラウド型救急医療連携支援事業」を行っています。この事業は、インターネット上のクラウドに送られてきた患者情報を本院の専門医がスマートフォンやタブレット端末で閲覧し、診断や治療方針のアドバイス、本院への救急搬送の必要性有無の判断などを行うもので、心疾患などが発症してから治療開始までの時間が短縮されるなどの効果を得ています。



北海道メディカルミュージアム

旭川医科大学の医師・看護師等が、Web会議システムを活用して、北海道内各地の参加会場で視聴する住民の方々に健康維持の方法や最新医療の知識などを提供しています。遠隔医療センター内の放送スタジオから講師のプレゼンテーションや司会者と講師が会話している様子などを、参加会場にライブ配信しています。参加者はシステムを通して講師に直接質問することもできます。また過去に開催した北海道メディカルミュージアムの動画を遠隔医療センターが運営するWebサイト「オープンインターネットカレッジ」でオンデマンド配信しています。

過去に開催したメディカルミュージアム(一例)

分類	テーマ
高齢者の健康	高齢者とこころの健康
	認知症高齢者と家族への支援
	摂食嚥下障害 地域に必要な関わり
がん	もし大腸癌になったら?最新の外科治療を踏まえて
眼科	見づらいと思ったら:老眼と自分で判断する前に



参加会場の様子



放送スタジオ

看護職キャリア支援センター

看護職キャリア支援センターでは、看護学生、学内外の看護職、教職員を対象に、いつでも、どこからでもキャリアを磨き、職場を移ってもキャリアを中断させない教育支援体制のもと、地域の保健医療福祉・教育機関との組織横断的な連携・協力を深め、キャリアに関する継続した支援を目指しています。



研修、講演会、セミナー等の開催状況(令和3年度)

区分	開催件数	延べ参加人数
学内教職員のみ対象	5	249
学内教職員及び学外看護職対象	9	学内193、学外132
合計	14	574

看護研究・キャリアに関する相談窓口の利用状況(令和3年度)

相談件数	21件
------	-----



訪問看護事業所との連携セミナーの様子
※学外からはZoomで参加いただきました。



実習指導者研修の様子
※学外からはZoomで参加いただきました。

専門医・育成管理センター

専門医・育成管理センターは平成30年4月から開始された新専門医制度に対応するため、平成29年に設置されました。本センターでは、専攻医に対する情報提供、連携施設ローテーションの調整、研修状況の調査ならびにセミナーの開催などを行っています。また、新専門医制度に関する様々な相談を受け付けています。今後も入学センター、教育センター、卒後臨床研修センターならびに地域共生医育統合センターなどと連携し、シームレスなサポートを提供していきます。

図書館

令和4年3月31日現在

図書館では、図書館をより身近に利用してもらうため、展示や様々なイベントを行っています。(テーマに沿った企画展示、本学関係者による小規模の講演会や各種データベースの説明会など)

また、図書館をよく知ることのできる「図書館ツアー」の実施や広報誌「Library News」も作成しています。医学や看護学を学ぶ際には欠かせない文献検索の講習会を目的別に開催するなど、研究や学習の支援にも力を入れています。

蔵書数

[図書]

区分	和書	洋書	図書合計(冊)
一般教育等	35,892	8,178	44,070
専門教育	基礎医学	24,549	34,461
	臨床医学	36,659	85,206
	看護学	466	9,937
計(冊)	103,822	69,852	173,674

[雑誌(種)]

区分	タイトル数
和雑誌	2,488
洋雑誌	1,724
電子ジャーナル	3,941

[視聴覚資料]

CD	CD-ROM	DVD	LD	ビデオテープ	その他	計
224	83	1,373	72	1,360	331	3,443



図書館

保健管理センター

健康相談関係 [医師・保健師]

利用状況(令和3年度)

月別	健康相談			応急処置	検査	その他
	身体面	精神面	計			
4月	185	4	189	5	74	15
5月	115	0	115	17	20	11
6月	468	3	471	12	2	168
7月	167	6	173	8	1	95
8月	114	0	114	5	0	26
9月	106	7	113	6	3	26
10月	78	4	82	14	0	52
11月	59	1	60	17	1	25
12月	33	1	34	8	1	17
1月	103	0	103	1	0	46
2月	65	3	68	5	0	49
3月	104	1	105	2	0	76
計	1,597	30	1,627	100	102	606



健康セミナー

教育研究推進センター

教育研究支援部では、研究者教育講習として研究データの信頼性を高めるため「倫理指針」「知的財産論」などの臨床研究の倫理教育を強化する講習や「研究倫理講習」などの研究不正防止、「臨床研究法」に関する講習を実施しています。また、基礎的な研究及び学内プロジェクト研究を支援するとともに、「橋渡し研究加速ネットワーク事業」の北海道拠点シーズの支援強化や関連特許出願を目指す基礎研究についても強化を図っています。

技術支援部(実験実習機器技術支援部門・動物実験技術支援部門・放射性同位元素技術支援部門)では、研究者の研究活動支援を行っています。



動物実験施設 Kurodake (K棟)

学内共同利用施設

情報基盤センター

インターネットは世界中につながり、リアルタイムの学術情報を収集できるだけでなく、本学の情報を世界に向けて発信することができます。情報処理センターは、旭川医大キャンパス情報ネットワーク(AMEC-Net)を構成する4つのサブシステム(医学・看護研究支援システム、情報処理教育支援システム、学術情報支援サブシステム及び管理運用サブシステム)からなり、学部学生の情報リテラシー教育の場として、また学術情報収集のための電子図書館として、学内の学生・教員の情報処理活動を支援するのみならず、学外へ本学の情報を発信しています。

臨床シミュレーションセンター

臨床シミュレーションセンターは、実践的な臨床医学教育訓練の場として、次のような成果を挙げることを目的としています。

- 1 臨床前医学教育における医学入門実習及び臨床実習における基本的臨床能力の習得(学部学生)
- 2 卒後臨床研修における一般臨床技能の習得(研修医)
- 3 生涯教育として高度臨床技能の習得(医師、看護師、コメディカル)
- 4 新たな教材の開発

[利用状況(令和3年度)]

区分	利用時間数	利用人数
コンピュータ・アシストラボラトリー	722	2,221
感覚器診断スキルズ・ラボラトリー	391	754
基本的臨床スキルズ・ラボラトリー	684	1,383
心肺機能・救命救急スキルズ・ラボラトリー	1,109	1,537
手洗い練習室	474	885
教材作成室	269	344

復職・子育て・介護支援センター (二輪草センター)

育児中でも働きやすい環境

仕事と家庭の両立を助け働きやすい職場環境を整えることを目的とした施設です。「復職支援研修部門」、「キャリア支援部門」、「子育て・介護支援部門」、「病児・病後児保育部門」の4部門で組織され、それぞれの教育プログラムや各種セミナー、講演会なども開催しています。



病児・病後児保育室「のの」

社会連携

公開講座開催状況

講座名	実施時期	講座の概要	実施回数
旭川医科大学生涯教育講座 (オンライン開催)	令和3年7月～令和3年9月	旭川医科大学において、学内および旭川市近郊の看護師等を対象に実施	4

派遣講座分野別実施件数

令和3年度実績

分野	件数	分野	件数
教育	3	眼の病気	1
思春期	9	ホルモンと病気	1
からだのしくみ	1	心理学	1
労働と健康	1	乱用薬物	3
腸内細菌	1	公衆衛生看護	6
感染症	2	地域看護	1
生活習慣病	3	精神看護	8
高血圧	1	集中ケア	2
法医学	1	災害対策	1
骨・関節の病気	1	その他	9
合計			56

近年の国内各自治体等との 協定締結一覧

締結先	協定内容	締結年月
北海道国立大学	単位互換協定	2014年2月
北海道国立大学	学部・大学院入学前 留学生教育の実施に 関する協定	2014年2月
富良野市及び富良野協会病院	連携協力協定	2014年3月
深川市立病院	連携協定	2015年4月
遠軽厚生病院及び遠軽町	連携協定	2016年1月
旭川市	包括連携協定	2014年6月
一般社団法人 東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会	連携協定	2014年6月
市立旭川病院	基本協定	2016年12月
芦別市	連携協定	2018年2月

派遣講座実施状況

令和3年度実績

区分	件数
旭川市	24
旭川市以外の市町村	13
小計	37
旭川総合振興局以外の市町村	19
合計	56

※一部オンライン開催も含む。

地域医療を支える 人づくりプロジェクト事業

令和3年度実績

講座	実施校数
高校生メディカル講座	5

※本学教員が北海道内の高校に講師として出向く出張講座。

講座	開催日	参加者数
メディカル・キャンプ・セミナー	令和3年8月10日	109

※医学部進学を目指す高校2年生対象の講演等。

高大病連携による 「ふるさと医療人」育成

内容	開催日	参加校数 (参加者数)
第12回 高校生による医療体験活動報告会 第11回 高校生による地域医療討論会	2022年3月21日	13 (282)

JICA「アフリカ地域 地域保健担当官の ための保健行政」コース

開催期間	参加国数 (参加者数)	参加国名
令和4年1月17日～2月10日 (オンライン開催)	5 (6)	コートジボワール、エチオピア リベリア、モロッコ、チュニジア



国際交流

外国人留学生

令和4年5月1日現在

国名	大学院		計
	国費	私費	
タイ王国	1(1)		1(1)
バングラデシュ人民共和国		1(0)	1(0)
計	1(1)	1(0)	2(1)

※()内の数字は、内数で女子を示す。

外国人研究者等受入状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
受入数	3	0	0

学術交流協定締結大学

令和4年5月1日現在



締結大学名	中国医科大学 China Medical University
国名	中華人民共和国(遼寧省)
締結期間	2005年9月13日～2025年9月12日
締結大学名	マヒドン大学熱帯医学部 Mahidol University, Faculty of Tropical Medicine
国名	タイ王国(バンコク市)
締結期間	2008年3月31日～2023年3月30日
締結大学名	ウダヤナ大学 Udayana University
国名	インドネシア共和国(バリ島)
締結期間	2008年4月21日～2023年4月20日
締結大学名	ハルビン医科大学 Harbin Medical University
国名	中華人民共和国(黒龍江省)
締結期間	2010年5月16日～2025年5月15日
締結大学名	モンゴル国立医科大学 Mongolian National University of Medical Sciences
国名	モンゴル国(ウランバートル市)
締結期間	2012年7月23日～2022年7月22日

締結大学名	メーファールアン大学 Mae Fah Luang University
国名	タイ王国(チェンライ市)
締結期間	2018年1月10日～2023年1月9日
締結大学名	ケープコースト教育病院及び ケープコースト大学健康関連科学カレッジ Cape Coast Teaching Hospital/ College of Health and Allied Sciences
国名	ガーナ共和国(ケープコースト市)
締結期間	2018年7月23日～2023年7月22日
締結大学名	ポメラニアン医科大学 Pomeranian Medical University in Szczecin
国名	ポーランド共和国(シュチェチン市)
締結期間	2018年11月28日～2023年11月27日
締結大学名	リオグランデスール連邦大学 Universidade Federal do Rio Grande do Sul
国名	ブラジル連邦共和国(ポルトアレグレ市)
締結期間	2021年5月28日～2026年5月27日

教育・研究費等

令和4年5月1日現在

科学研究費助成事業[令和3年度実績]

研究種目	件数	交付額		経費合計
		直接経費	間接経費	
新学術領域研究	2	23,000	6,900	29,900
基盤研究(B)	8	30,600	9,180	39,780
基盤研究(C)	105	82,600	24,780	107,380
挑戦的研究(萌芽)	2	3,200	960	4,160
若手研究	55	51,800	15,540	67,340
若手研究(B)	2	100	30	130
研究活動スタート支援	6	7,000	2,100	9,100
国際共同研究強化(A)	3	10,800	3,240	14,040
国際共同研究強化(B)	2	6,400	1,920	8,320
研究成果公開促進費	1	500	0	500
奨励研究	1	470	0	470
計	187	216,470	64,650	281,120

※主任研究者分を掲載。

(単位:千円)

外部資金[令和3年度実績]

種目	件数	金額
寄附金	442	265,083
寄附金(寄附講座)	6	99,900
受託研究費(一般)	74	36,080
受託研究費(治験)	196	86,266
受託事業費(病理組織検査)	5,938	56,212
共同研究費	54	65,095
その他競争的資金	8	39,801
旭川医科大学基金	180	6,853
計	6,898	655,290

(単位:千円)

その他競争的資金[令和3年度実績]

事業名等	件数	直接経費	間接経費	経費合計
AMED 医療研究開発推進事業費補助金(橋渡し研究戦略的推進プログラム)	1	7,320	0	7,320
AMED 委託研究開発費(医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業・e-ASIA)	1	1,835	551	2,386
厚生労働科学研究費補助金	2	6,957	2,086	9,043
科学技術振興機構 COIプログラム	1	3,000	900	3,900
科学技術振興機構 CREST	1	300	90	390
日本学術振興会 二国間交流事業	1	1,900	0	1,900
文部科学省 研究拠点形成費等補助金(人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン)	1	14,862	0	14,862
計	8	36,174	3,627	39,801

※主任研究者分を掲載。

(単位:千円)

予算[令和4年度]

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	4,969	業務費	28,572
施設整備費補助金	10	教育研究経費	5,048
補助金等収入	680	診療経費	23,523
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	18	施設整備費	516
自己収入	24,707	補助金等	680
授業料及び入学金検定料収入	613	産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	800
附属病院収入	23,786	長期借入金償還金	1,104
雑収入	307	計	31,673
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	800		
長期借入金収入	488		
計	31,673		

※百万円未満切捨てにより表示。

(単位:百万円)

土地・建物配置図

土地・建物

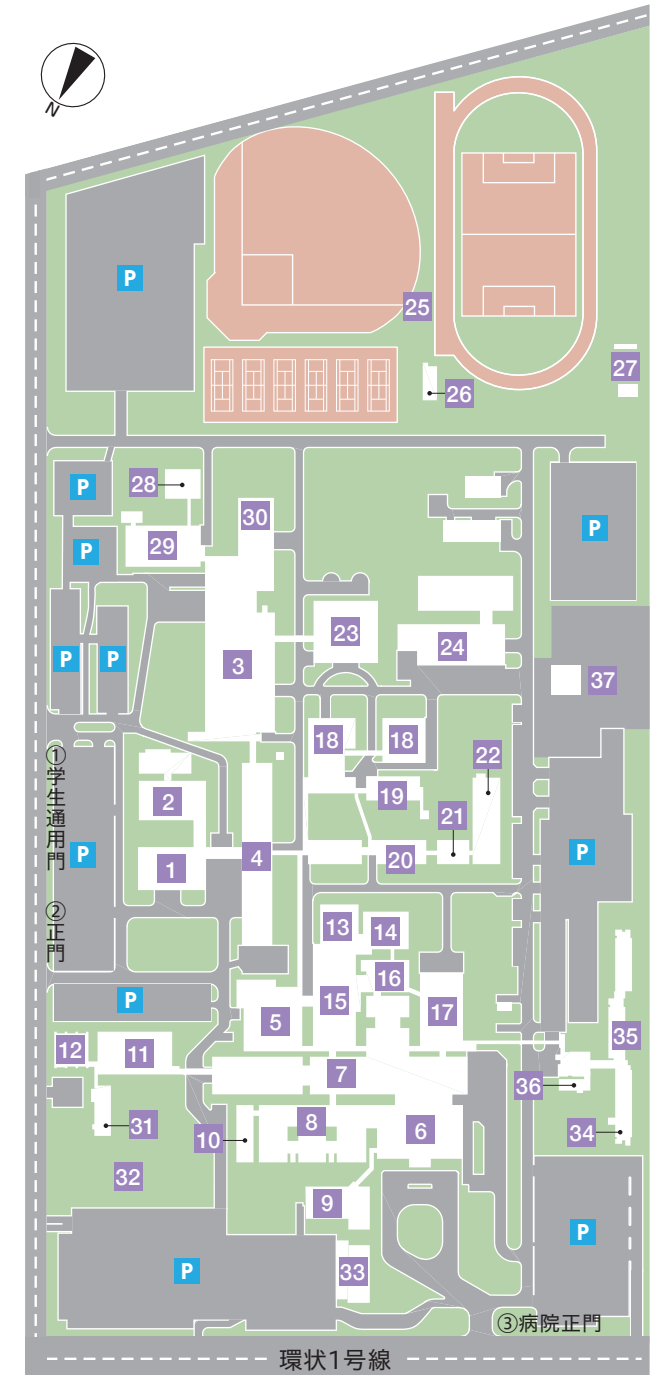
S:鉄骨コンクリート R:鉄筋コンクリート SR:鉄骨鉄筋コンクリート W:木造 B:ブロック

令和4年5月1日現在

区分	土地(m ²)	建築面積(m ²)	建築延面積(m ²)	構造・階	主な施設
本部管理棟	184,434	1,123	2,142	R2	学長室・事務局長室 他
図書館		1,256	2,735	R2-1	閲覧室 他
講義実習棟		3,027	7,239	SR4	一般教育等教員室 他
総合研究棟		1,782	13,997	SR8	専門教育教員室 他
臨床講義棟		1,490	1,590	R1-1	講義室
病院		11,964	59,628	SR11-1	外来診療棟・病棟 他
遠隔医療センター		295	885	R3	遠隔医療情報室 他
共通棟(A)		1,047	1,047	S1	卒後臨床研修センター 他
共通棟(B)		374	1,078	S3	専門教育教員室 他
動物実験施設A.K		1,995	4,324	R3	SPF動物飼育室 他
放射性同位元素研究施設		453	948	R2	照射室・RI貯蔵室 他
実験実習機器センター1.2		982	3,652	R3.R5	電子顕微鏡室 他
臨床研究棟		260	1,318	R5	専門教育教員室 他
共用研究棟		1,500	1,500	S2	研究室 他
看護学科棟		1,051	6,477	SR6	大講義室 他
中央機械室		2,902	3,055	R2	電気室・ボイラー室 他
屋外運動場					陸上競技場・野球場 他
体育管理施設		160	160	R1	ミーティングルーム 他
弓道場		78	78	W1	
武道場		424	424	R1	柔道場 他
体育館		1,082	1,082	S1	競技場・ロッカー室 他
福利厚生施設		1,390	2,331	R2	食堂・保健管理センター 他
保育園		294	294	S1	
一般管理施設		468	468	R1	廃棄物処理施設・危険物保管庫 他
物品庫		90	90	B1	
緑が丘テラス	599	599	S2	薬局・会議室 他	
看護師宿舎	9,353	1,422	5,709	R5	
病院トリアージ施設		213	213	S1	
ドクターヘリポート	6,711				
駐車場	31,330				
小計	231,828	37,721	123,063		
職員宿舎	26,953	2,934	14,737	R5	大学構外
計	258,781	40,655	137,800		

建物配置図

- 1 本部管理棟
- 2 図書館
- 3 講義実習棟
- 4 総合研究棟
- 5 臨床講義棟
- 6 病院玄関棟
- 7 病棟
- 8 外来診療棟
- 9 食堂棟
- 10 遠隔医療センター
- 11 共通棟(A)
- 12 共通棟(B)
- 13 MRI-CT装置棟
- 14 高エネルギー施設
- 15 中央診療棟A
- 16 特殊診療棟
- 17 中央診療棟B
- 18 動物実験施設
- 19 放射性同位元素研究施設
- 20 実験実習機器センター
- 21 臨床研究棟
- 22 共用研究棟
- 23 看護学科棟
- 24 中央機械室
- 25 屋外運動場
- 26 体育管理施設
- 27 弓道場
- 28 武道場
- 29 体育館
- 30 福利厚生施設
- 31 保育園
- 32 大学の森
- 33 緑が丘テラス
- 34 ファミリーハウス
- 35 看護師宿舎
- 36 病院トリアージ施設
- 37 ドクターヘリヘリポート



←ツインハート橋

位置図



交通案内

JR		
札幌駅→旭川駅	所要時間	約1時間25分
新千歳空港駅→札幌駅→旭川駅	所要時間	約2時間20分
旭川電気軌道バス [旭川駅前(緑橋通り)27番のりばから乗車]		
71番 医大病院前行(緑東大橋経由)	所要時間	約35分
旭川空港からのバス [旭川電気軌道・ふらのバス]		
空港乗車→旭川医大前下車	所要時間	約30分
タクシー		
旭川駅→旭川医大前	所要時間	約15分
旭川空港→旭川医大前	所要時間	約20分



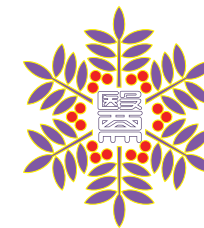
機関別認証評価認定マーク
 学校教育法第109条第2項の規定に基づき、大学改革支援・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受け、令和4年3月24日付けで「大学評価基準を満たしている」との認定を受けました。



医学教育分野別評価認定マーク
 医学部医学科は、令和元年度に一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を受審し、本学の医学教育が国際基準に準拠していると認定されました。



くるみんマーク
 平成27年6月25日付けで北海道労働局長から次世代育成支援対策推進法第13条に基づく「基準適合一般事業主」(子育てサポート企業)に認定され、次世代認定マーク「くるみんマーク」を取得しました。



旭川医科大学学章
 雪の結晶により北海道を、旭川市民の木「ナナカマド」により旭川をイメージすることができ、その中央の医大の文字により、北海道の中央にある「旭川医科大学」をイメージしています。



旭川医科大学ブランドマーク
 イニシャルの「A」をストライプで図案化。右上がりに跳ねる様は、豊かな自然の旭川から医療人及び研究者を育成し、地域に根ざした医療及び福祉のさらなる向上(発信)を表現。紫は、ラベンダーの景観や医療の英知・国際貢献、緑は再生や生命の輝きを意味しています。

最北の医科大学で学ぶ、最新医療の道。



国立大学法人

旭川医科大学

National University Corporation
Asahikawa Medical University

[編集]

旭川医科大学総務課

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1

Tel 0166-65-2111

<https://www.asahikawa-med.ac.jp>